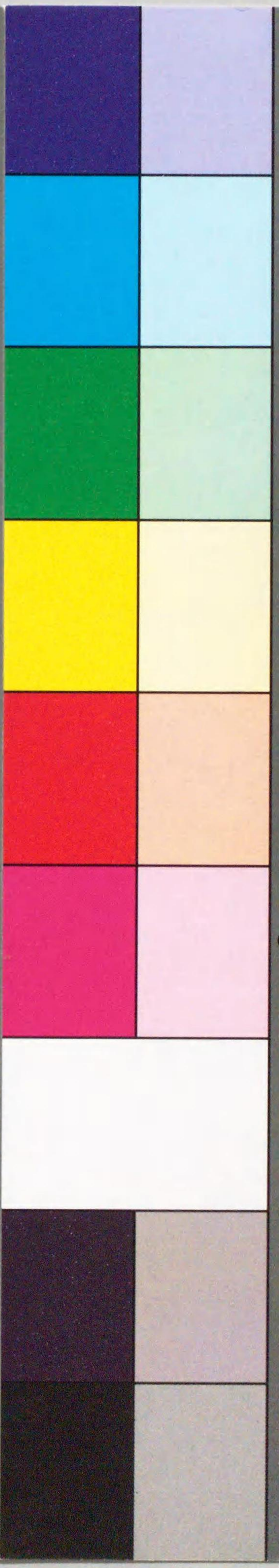


# Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



# Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



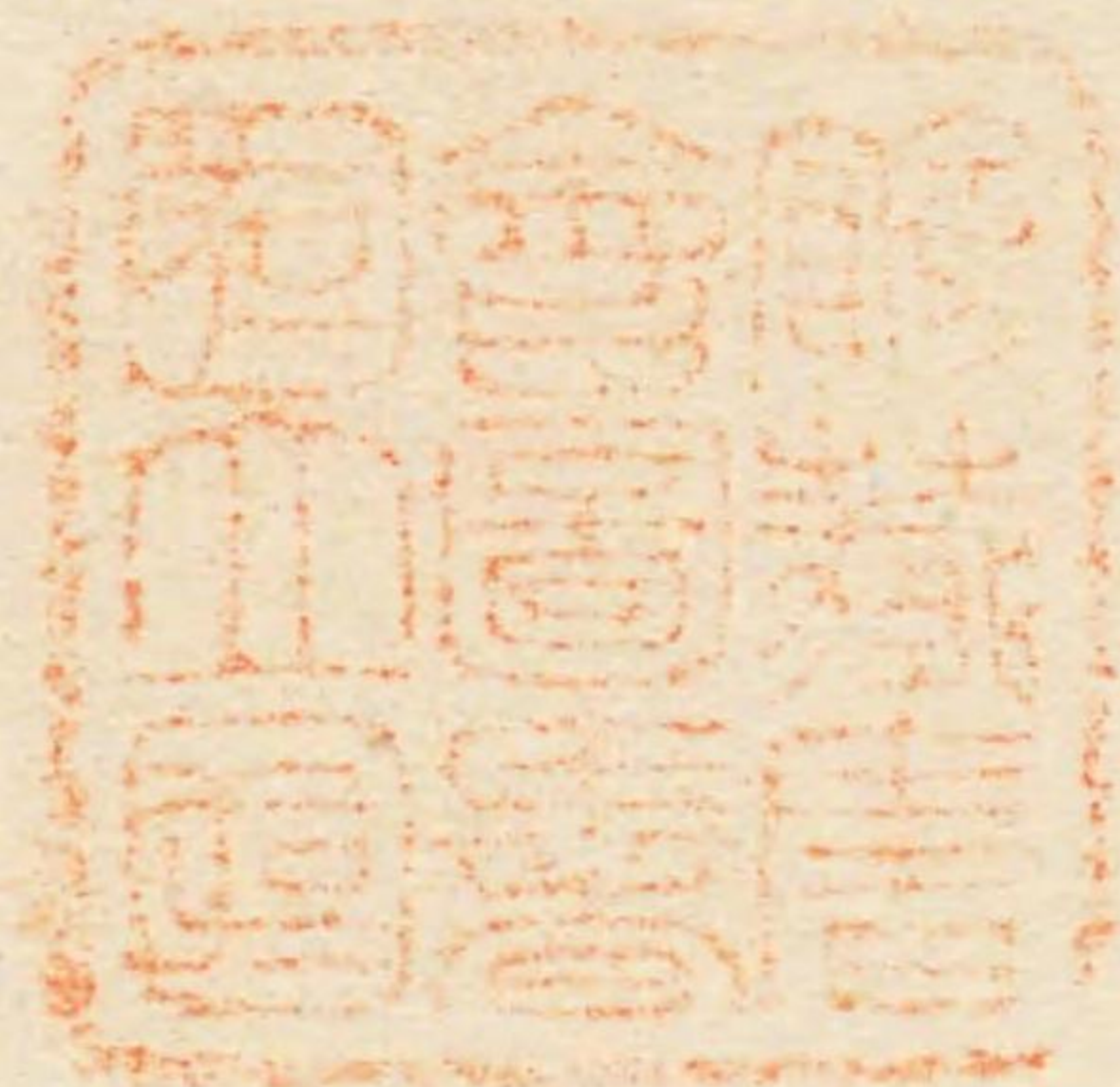
訂正  
二版

# 艾那夾

卷四



222.01I 763a



225440



支那史卷四目錄

第一篇 隋唐五代史

第一章 隋室の興亡

第一節 隋初の隆盛文帝の治世 煬帝の即位を征

す

第二節 隋末の争亂及び隋室の滅亡煬帝の即位を征 反 煬帝の

の蜂起 李淵の興起

第二章 唐室の隆替

第一節 唐初の形勢及び高祖の政治群雄の割 據 海内

の平定

第二節 太宗の治世太宗の内治 玄武門の變 太宗の政治 吐谷 吐蕃 高昌等を下す

高麗を征す 龜茲及び西突厥を伐つ 天子の廢立

第三節 高宗の治世及び武韋の専恣突厥の背 叛 西突

一 丁

六 丁







遠の即位 隱帝立つ 三叛の連兵 宰相の軋轢 郭威漢を篡す 周の世宗の治世 世宗の即位 高平の戦 世宗の死 趙匡胤 契丹を伐つ 後蜀を伐つ 南唐を

(附) 十國沿革表

第四章 隋唐五代の開化

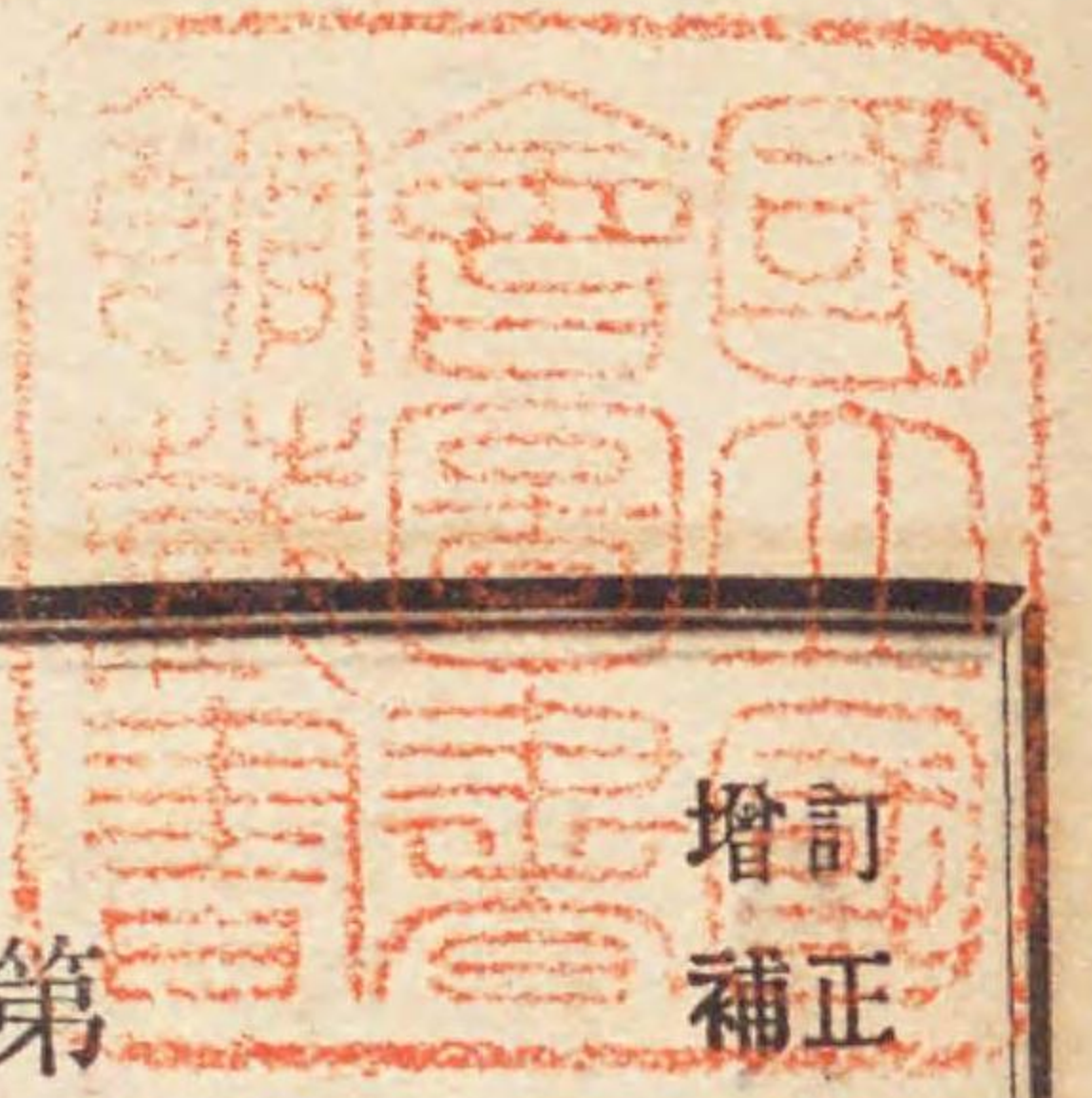
六十九丁

- 第一節 制度 官制 兵制 田制 税法 法制 選舉
- 第二節 學術 學校の沿革 經學 史學 文學
- 第三節 宗教 佛教 道教 景教
- 第四節 技藝 音樂 書畫
- 第五節 産業 農業 商業

(附) 隋唐五代大事年表

隋唐五代間諸國興亡表

支那史卷四目錄終



增訂補 支那史卷四

第一篇 隋唐五代史

第一章 隋室の興亡

第一節 隋初の隆盛

隋の文帝即位の後八年にして陳を滅し久しく南北に分れたりし支那境域を統一せり帝既南北を併せられたるも能く心を政治に用ひて節儉を尙べり然るも太子勇は常に奢侈を好みしは帝之を悦ばず獨孤皇后も亦事によりて深く勇を惡みたり時に勇の弟廣晋王たりしが自ら矯飾して父母の意をとり太子の位を奪はむとす后其意を知らず遂に帝に勸めて勇を廢し廣を立て、太子となす後帝の病あるより方て廣を召す廣帝の崩せむををはかり書を以て後事を僕射揚素に問ひしに宮人誤りて其答書を帝の所に達す廣又帝の寵姫

文帝の治世

常陸 市村瓚次郎 纂著  
出雲 瀧川龜太郎



楊帝の即位

陳夫人を辱かしめむとす帝其書を覽、又陳夫人の事を聞きて大に怒り將に故の太子勇を召して後事を托せむと是に於て廣遂に人をして帝を弑せしめ又詔と稱して勇を殺し遂に自ら帝位に上れり是を煬皇帝と云ふ時帝の弟漢王諒河東河北の地を領して並州に在りしが帝の位に即くに及びて兵を舉げて反す帝揚素をして之を討せしめ大に其軍を破りて諒を降したり（後遂に幽死す）是より帝復憚る所なく益奢侈に耽り二百萬人を役して東京を營み西苑を造り海内の嘉木異草珍禽奇獸を求めて苑圃に充つ又長安より江都に至る間に離宮四十餘所を設け或は洛陽に往き或は江都に往き常に巡遊を事とせり故に往來の便を得むか爲めに前後運河を開きたるを多し彼の通濟渠（西苑より水を引きて河水に達し河水を引ききて汴水に入れ又汴水を引きて泗水に入れ遂に淮水に達す）刊溝（江蘇省淮安揚州二府の間に於ける運河なり）永濟渠（沁水を引きて南河水に達し北涿郡に達す今の衛河なり）江南河（江蘇省鎮江府より浙江省杭州に至る間の運河にして今南運河と稱する者なり）の如きを即是れなり此の開鑿の爲めに人民を役したるを舉げて數ふ可からず又二十餘萬人を役して長城を西北の地に築き或は汾陽宮及び晋陽宮を造り或は天下

楊帝の奢侈

楊帝高麗を征す

の鷹師を徴し或は海内の樂師を集め毎歲巨萬の金を費すを常とせり帝また突厥を服し林邑を平け吐谷渾を破り其威によりて高麗王を召し、に王至らず依て遂に高麗親征の役を起したり帝先つ天下の兵をして涿郡に會せしめ又河南淮南江南に敕して戎車五萬乘を造りて衣甲を供載せしめ江淮以南の民をして黎陽（河南省衛輝府滑縣）及び洛口倉等の米を運せしむ往還する者數萬人ありて死者相枕す既にして涿郡に集りし者百十三萬人あり帝親ら遼東に至り諸將を遣はして平壤を攻めしめたりしが克たず大敗して還れり是より天下騷然百姓相集りて盜をなす豪傑の士各地に蜂起するに至れり

第二節 隋末の争亂及び隋室の滅亡

帝遼東を破れてより一年を経て復兵を徴して高麗を討ち遼東城を攻めしが城險にして抜く能はず時に揚素の子玄感督運となりて黎陽にありしが國政の方に亂れたるを見て遂に兵を舉げて反す帝依て軍を還し將を遣はして之を討ち遂に其亂を平け復涿郡に往きて高麗を征す高麗使を遣はして降

揚玄感の反



起 群雄の蜂

を請ふ帝依て兵を引ききて洛陽に還り又江都に巡遊せり  
是時に方て盜賊各地に蜂起し群雄四方に割據せる者少ならず鄱陽の賊帥  
操師乞自ら元興王と稱し郷人林子弘を大將軍となす既にして師乞敗死した  
りしかは士弘代りて將となり九江臨川南康宜春等の郡(皆今の江西にあり)を取りて  
楚帝と稱す章丘の人杜伏威輔公祐と共に兵を起し歴陽に據りて總管と稱す  
江淮間の小盜皆其部下に從ふ漳南の人竇建德漳南(山東省東昌府)に據りて長樂王と  
稱し近隣の諸郡を下す長安の人李密向きに揚玄感に從ひて兵を挙げたりし  
が玄感の敗る、よ及びて亡命し遂に復翟讓等と兵を起して滎陽を下し所部  
を統べて西行し洛口倉に據りて自ら魏公と稱す朔方の郎將梁師都其郡丞を  
殺して郡に據り遂に梁帝と稱し突厥と好を通す馬邑の校尉劉武周も亦其太  
守を殺して自ら太守と稱す突厥武周を立て、定陽可汗となし樓煩定襄等の  
諸郡を下す金城の校尉薛舉其令を囚へて兵を隴西(甘肅省鞏昌府)に起して自ら西秦  
霸王と稱し盡く隴西の地をとり遂に秦帝と稱す武威の司馬李軌兵を河西

起 李淵の興

(甘肅省蘭州涼州三州の地方)に起し又盡く其地をとりて河西大涼王と稱す羅川の令蕭銑兵  
を巴陵(湖南省岳州府)に起して梁王と稱す而して唐公李淵も亦兵を大原(山西省太原府)に起  
したり初め淵の父昉北周に仕へて唐公に封せられしが淵も亦爵を嗣きて唐  
公となり隋に仕へて弘化(甘肅省慶陽府)の留守となれり盜賊の蜂起するに及びて山  
東の慰撫大使となりて晋陽にあり淵の次子世民海内の方を亂れたるを見て  
竊に蒼生を安する志を有し晋陽の宮監裴寂晋陽の尹劉文靜と共に淵に兵を  
挙げむを勸誘す淵依て遠近の兵を募り且文靜を突厥に遣はして援を借ら  
しむ世民兵を引て西河(山西省汾州府)を破り淵又霍邑(同平陽府霍州)臨汾(同平陽府陽府)絳郡(同絳州)等を  
下す既にして文靜突厥の兵を率ゐて至り韓城(陝西省同州府)を下す淵遂に諸軍を併  
せて長安に入れり時帝尙江都にありしかは遙に尊て太上皇となし別に代  
王侑を立つ是を恭帝といふ上皇江都にありて中原の既に亂れたるを見て北  
に歸るを欲せず日夜酒色に沈湎せり從駕の士皆郷土を思ふも歸るを得ず依  
て反を謀り宇文化及を奉して主となし夜兵を引て宮中に入り遂に上皇を弑



し又悉く隋の宗室を殺し唯秦王浩を立て、帝となす化及自ら大丞相となり衆を擁して西す是時李淵の勢甚盛よして相國となり遂に帝の禪を受く是を唐の高祖皇帝と云ふ隋凡三世三十七年にして亡ひぬ

○隋の帝系

文帝堅 在位二十四年 煬帝廣 同十元德太子昭二年

恭帝侑 同一年

第二章 唐室の隆替

第一節 唐初の形勢及び高祖の政治

唐の高祖の位に即くに方て群雄各地に割據して海内尙未だ平ならず隋の東都の留守王世充は洛陽にあり越王侗を奉して帝と号す宇文化及は進て黎陽に至り李密と戦ひて利あらざ魏縣に至て其立てたる秦王浩を弑して自ら許帝と稱す魏公李密は王世充と戦ひて大敗し遂に唐に降りしが後叛きて殺

雄群の割據

されたり涼王李軌は河西にありて帝と稱し秦王薛舉は既に死したりしか其子仁杲父に嗣きて帝と稱す梁王蕭銑は江陵にありて帝と稱す劉武周梁師都も亦各北方に雄視せり長樂王竇建徳は河北の諸州を取りて夏王と稱し宇文化及と聊城に戦ひて其軍を破り化及を殺す王世充は遂に其主侗を廢して自ら鄭帝と稱す又沈法興は毗陵江蘇省常州毗陵縣に據りて江表の十餘郡を有し梁王と稱す李子通は江都に據りて吳帝と稱すかくの如き勢なれば唐初帝業の困難ありしを推して知るべきなり然るに能く其平定の功を奏したるは一に世民の力に依れり

世民先づ西秦を伐ちて薛仁杲を下す武徳元年尋て唐の將張興貴河西を襲ひて李軌を執ふ同二年世民又劉武周の將宋金剛を破りしかは武周金剛皆走り死す李靖又蕭銑を伐ちて梁を平けたり同三年世民又王世充を伐つ世充救を竇建徳より求む建徳自ら兵を率ゐて洛陽に赴き世充を援ふ世民依て之を汜水に逆撃し其軍を破りて建徳を擒はす是に於て世充城を出て、世民に降れり後世充長安にて斬



りれた既にして建徳の故將劉黑闥又兵を漳南に起して漢東王と稱す徐圓朗兵を擧げて黑闥に應じ魯王と稱す東北の諸州また多く其の下に從へり同四年世民弟元吉をして黑闥及び圓朗を討たしめたりしが功を奏せず依て自ら圓朗を伐ちて其兵を破れり是より先き吳主李子通沈法興を襲ひしかは法興走死す子通依て其地を併せて其勢頗盛なりしが杜伏威に執はれて京師に送られたり伏威も亦世民の圓朗を破るゝ及び大に懼れて入朝す楚主林士弘も尋て卒し其衆遂に離散す是に於て東南の地全く平定に歸せり同年世民又黑闥を破りしかは黑闥突厥に走り屢其兵を借りて入寇したりしが後其將に執へられたり凡帝の即位より七年を経て僭偽の諸國皆滅び海内初めて定まるに至れり唯梁師都のみ存せしが太宗の貞觀七年に至て亡ひぬ

帝學校を設け官制を更め律令を頒ち班田を行ひ租庸調の法と定め府兵の制を作り頗心を内治に用ひたり海内の定まるゝ及び世民の功の大なるを以て立て、儲嗣をかきむとす世民固く辭して肯んば初め帝長子建成を太子と

し世民を秦王とかし元吉を齊王となしたりしが建成酒色を好みて遊畋を事とし元吉も亦過失多く世民の功名獨盛なりき是に於て建成元吉相謀りて世民を除くむとす世民依て兵を帥ゐて玄武門に伏し建成元吉の入朝を窺ひて之を射殺す帝遂に世民を太子となし軍國の事は悉く其の處決に委せり既よして帝自ら太上皇と稱し位を世民に傳ふ同九年是を太宗皇帝と云ふ

第二節 太宗の治世

太宗天資聰敏勇決にして旁文學を嗜み其秦王たりし時既に杜如晦房玄齡等十八人杜如晦、房玄齡、虞世南、褚亮、姚志康、李玄道、蔡允恭、薛元敬、顏相時、蘇昂、于志寧、蘇世長、薛收、李守素、陸德明、孔穎達、蓋文達、許敬宗を文學館の學士となす是を十八學士といふ後遂に玄齡如晦によりて策を決し建成元吉を殺して帝位に上れり帝玄齡を尙書左僕射、如晦を尙書右僕射となし共に朝政に與らしむ二人心を同くして帝を輔けたり帝又魏徵を以て諫議大夫をなす徵諫諍を以て顯はれたり帝常は勉めて諫を容れ人を用ひたりしかは群臣皆各其力を悉し紀綱自ら振ふに至れり帝最驕侈を戒め即位の初に宮女三千



人を出し後又三千人を出せり帝又刑罰を憫み曾て死囚三百九十人を縱遣し其來秋を期し來りて死し就くべきを命せしに期に至て皆歸り來り一人の逃れざる者なかりしかの遂に其死を赦せり是の時に方て海内昇平にして人民其居に安し外戸を閉ちぎ路に遺ちたるを拾ひさるに至れりといふ亦其太平の盛を觀るに足るべしかく善く國內を治めたるのみからせ又よく外國を服し版圖を開きたり

初め突厥隋に服従したりしが唐の高祖の世に及びて連年北邊に寇し、かの高祖諸將を遣はして拒かし免ざるをありき帝の世に至て頡利可汗突利可汗と十餘萬騎を合せて入寇したりしが帝の威を懼れて盟をなして退きたり

突厥を服す

(帝房玄齡等六騎渭水の上に至りて頡利を責めたるは此時なり三年)後頡利突利と隙あり又薛延陀回紇等離叛し且人民大に飢ゑて羊馬多く死したるを以て其國勢大に衰ふ帝李靖を遣はして頡利を陰山に擊破し遂に之を擒はす是時突利の既に入朝して唐の臣となれり帝依て突利の地を分ちて四州となし頡利の地を分ちて六州となし

吐谷渾吐蕃高昌等を下す

左に定襄都督を置き右に雲中都督を置き其衆を統べしめ又突利を順州の都督となし頡利を右衛大將軍となせり(貞觀四年)

突厥既に破れしかの四方の諸國皆唐の威に震懾し奚、霫、室韋、高昌、吐蕃、康國、林邑等相つきて入貢せり(同六年)吐谷渾も亦使を遣はして來りしが尋て西邊に寇す帝依て段志玄を遣はして之を討たしめ大に其軍を破り(同八年)後又李靖等をして之を平けしめたり(同九年)帝又吐蕃の叛きて松州に寇したるを以て

侯君集を遣はして之を討たしむ(同十三年)吐蕃王其罪を謝し且婚を求めたりしかの帝遂に其請を許せり帝又高昌王麴文泰の西域諸國の朝貢の路を絶ち又西突厥と共に伊吾及び焉耆を攻めたるを以て君集をして之を討たしむ君集遂に其王を擒はし又西突厥を降せり是に於て其地を西州、庭州となし安西都護府を交河城(甘肅省吐魯蕃)に置きたりき

高麗の泉蓋蘇文といふ者其王建武を弑して別は其弟藏を立て、君となし又新羅入貢の路を絶ちたりしかの帝兵を率ひて親征し進て遼東城を拔きて



高麗を征す

遼州となく白巖城盛京省奉天府遼陽州の東北にありを下して巖州となく遂に安市城奉天府藍平縣の東北にありを攻めりしが城險にして抜く能はず帝其地の早寒にして久く士馬を留め難く且糧食の將に盡きむとするを以て師を班せり同十後李世勣等を遣はして高麗を伐ちたりしが亦成功をかりしが遂に高麗征討の兵を止めり同二十三年

薛延陀回紇等を下す

帝の高麗を征するに方て薛延陀屢入寇したり帝依て江夏王道宗、阿史那社爾等に命じて之を討せしむ時、回紇の酋長吐迷度も亦僕骨、同羅と共に薛延陀を攻めたりしか、其國中大に驚擾し國王多彌可汗は回紇に殺され餘衆は盡く遁逃せり然れども猶七萬餘人ありて共に伊特勿失可汗を立つ帝其漠北の患をなさむを恐れ更し李世勣に命じて其餘族を討たしむ世勣鬱督軍山に至りて其可汗を降し悉く其族を平けたり是に於て唐の勢威は西北の諸國に及び回紇、拔野古、僕骨、多濫葛、同羅、思結、阿跌、契苾、跌結、渾、解薛等の十一國の酋長皆入貢せり帝回紇を幹海府となく拔野古を幽陵府となく僕骨を金

天竺を服す

微府となく多濫葛を燕然府となく同羅を龜林府となく思結を廬山府となく阿跌を雞田州となく契苾を榆溪州となく奚結を雞鹿州となく渾を臯蘭州となく解薛を高闕州となく各其酋長をして都督又は刺史たらしめ尋て燕然都護府を置きて是等の府州を統べしめたり同二十一年高宗龍朔二年に燕然都護府を改め又瀚海都護府を雲中の故城に徙して名を雲中都護府と改め漠北の州縣は瀚海に隸し漠南は雲中に隸す後瀚海都護府を改めて安北都護府となせり初め僧の立獎天竺より還りて具に其國狀を白す帝依て王立策を遣はし諸國に諭して入貢せしむ時に中天竺三王尸羅逸多卒して其臣阿羅那順自立し兵を發して立策を襲ふ立策擒にせられたりしが逃れて吐蕃に走り其國兵と隣國の兵とを發し天竺を攻めて阿羅那順を擒す是に於て天竺大に振響せりと云ふ同二十二年

龜茲及び西突厥を伐つ

龜茲王阿黎布失畢と云ふ者隣國を侵擾したりしがは帝阿史那社爾、契苾何力等を遣はし吐蕃吐谷渾と兵を合せて之を討たしむ社爾焉耆の西より龜茲の北境に出て、兵を分ちて五道となく遂に其王を擒はし大城五、小城七百



太子の廢立

餘を下し其王の弟を立て、君となせ是は於て西域の諸國大に震駭し西突厥于闐等の争ひて軍食を饋れり既よりして西突厥の背きて入朝せざるを以て高侃に命し回紇僕骨等の兵を發して之を討たしめたり  
帝向きに子承乾を太子となす承乾不肖にして游戲を事とす時に侯君集功を恃て怨望し竊に叛を承乾に勸む既にして事顯れぬりしかば帝承乾を廢して庶人とかし君集を誅し更し晋王治を立て、太子となせり(同十一年)帝在位二十三年にして崩し太子立つ是を高宗皇帝と云ふ

第三節 高宗の治世及び武韋の專恣

高宗の世より前代より引き續きたる外國の關係頗多し初め李靖突厥を破りて三百帳を雲中に遷し阿史德氏を長となしよりしが帝の時に及びて阿史德温傳及び奉職の二部反きて阿史那泥熟匄を立て、可汗となせ衆數十萬あり唐の將共し戰ひて大敗す帝裴行儉を遣はし大兵を率ゐて突厥を伐たしめ大に其兵を破り奉職を虜にす泥熟匄は其下に殺されたり(永隆元年)行儉の返るに及

突厥の背叛

西突厥を平く

ひて阿史那伏念温傳と兵を連ねて入寇す帝又裴行儉に命して之を討らしむ既にして伏念自ら温傳を縛して降り突厥の餘黨皆平きたり(開耀元年)後阿史那骨篤祿等散亡を招集して復寇をなしたりき  
西突厥の高侃し攻められりしが後沙鉢羅可汗太宗の崩せるを聞きて屢邊に寇す帝蘇定方等に命して之を伐たしむ沙鉢羅軍破れて石國に走りしが遂に虜にせられたり是に於て其地を分ちて濛池崑陵の二都護府を置き阿史那彌射を崑陵の都護となし阿史那步眞を濛池の都護となせり(顯慶元年)後彌射の殺され歩眞の卒するに及びて阿史那都支其餘衆を收めて吐蕃に附す尋て吐蕃と安西を侵したりしが都護王方翼に破られて平けらるゝし至れり(永淳元年)  
高麗の百濟と共に新羅を侵したりしかば新羅王援を唐より求む帝依て程名振を遣はして高麗の兵を破れり後百濟また新羅を侵したりしかば帝蘇定方を遣はして百濟を伐ち其王義慈を降し熊津都督府を置き其酋長を刺史都督となせり(顯慶五年)定方等遂し進みて高麗を伐ちしが時に百濟の僧道琛及び故將



高麗百濟  
新羅を下  
す

福信等王子豊璋を日本よき迎へて君となし其勢頗盛なり豊璋使を高麗及び日本に遣はし兵を乞ひて守禦の備をなす既にして劉仁軌百濟及び日本の兵を破りしかハ豊璋高麗に出奔して百濟盡く平きたり(龍朔三年)後又李勣を遣はして高麗を伐ち平壤を下し遂に其國を分ちて九都督府となし安東都護府を平壤に置きたり(總章元年)後新羅の王高麗の叛者を納れ且百濟の故地に據りしかハ帝劉仁軌をして之を伐たしむ仁軌大に其兵を破りしかハ新羅王使を遣はして其罪を謝しとりき(上元二年)

吐蕃の叛  
服

吐蕃は吐谷渾を破り西域諸州を陥れ于闐と連和して龜茲を襲ふ帝薛仁貴等を遣はして吐蕃を討しめたりしか大敗せり(咸亨元年)後吐蕃和を請ひしに許されざりしハ頻に邊に寇す帝又大に兵を發して之を伐たしめ吐蕃の兵と青海の上と戦ひて大敗せり(儀鳳二年)吐蕃盡く黨項及び諸羌の地をとり東ハ涼松茂嶺等の州に至り南ハ天竺に隣り西ハ龜茲疏勒の諸鎮を陥れ北ハ突厥に至り(永隆元年)其勢益強く後世に至るまで唐との關係を絶えざりき

武氏政に  
參す

かく外は外國との關係多きに方て内は皇后武氏の漸く政を預るあり武氏は太宗の才人なりしが太宗の崩するに及て尼となれり帝の世に方て皇后王氏は淑妃蕭氏と寵を争ひて相惡みしかは遂に帝に勸めて武氏を宮中に入れて昭儀となせり既にして武氏王后を誣告す帝その言を信じ長孫無忌褚遂良等の諫を聽かすして王后を廢し武氏を立て、皇后となす是は於て無忌遂良等皆貶竄せられたり武后性明敏にして膽畧あま文史に涉獵す帝曾て風眩を病みて百司の奏事を視る能はま武后をして裁決せしめしに皆其旨に稱へり是より諸政に參し其權人主と侔しかりき帝陳王忠(廢妾の子)を太子とあらし、が武后之を廢して其子弘を立て既にして弘后の意に忤ひしかは又之を鳩して雍王賢(武后の姉の子)を立て尋て又賢を廢して英王哲を立てたり帝在位三十四年にして崩したりしかは太子哲立つ是を中宗皇帝と云ふ武后皇太后となりて政をとり遂に帝を廢して廬陵王となし其弟豫王旦を立てたりしが政權皆太后の手にあまて帝は虚器と擁するのみかりき時ハ眉州の刺史李敬業(李勣の子)

高宗の崩



事を以て柳州の司馬に貶せられたりしが揚州に至りて兵を起し太后を討たむとするを以て名とあす幾もなくして敬業敗死しよりしが是より太后天下より已に圖る者あるを疑ひ且僧の薛懷義を寵したるか如きとありしかは宗室大臣の服せざるを知り大に誅殺を行ひて威を立むとし盛に告密の門を開く酷吏索元禮、周興、來俊臣等鍛鍊羅織して人を誅殺す太后竊に革命を圖り稍宗室を除きしかは越王貞等皆自ら安せむ兵を挙げたりしか事成らむして殺されたり是に於て太后大に唐の宗室を殺し遂に唐を改めて周となり自ら皇帝と稱す所謂則天皇帝是なり帝濫に祿位を以て天下の人心を收めたれども其職に稱はざる者は直に廢黜し賞罰の柄を握りしかは俊傑の士も亦其用をなし徐有功、魏元忠、婁師德、狄仁傑、姚元崇の如きは皆當時の人物と稱せられたり帝告密の門を開きしより酷吏其威を恣にし誅殺せられたる者勝けて數ふ可からむ帝も亦其煩を厭ふに至り周興、來俊臣等相續て誅せられたり帝又薛懷義を殺し更に張易之、張昌宗の兄弟を寵す二人競て豪侈をなせり帝の

姪武三思太子たらしむを求めたりしが帝狄仁傑の言によりて廬陵王を召還して太子となし且を相王となせり帝常に狄仁傑を重し其病めるより方て當時の人物を問ふ仁傑曰く張柬之と云ふ者あり老たりと雖も宰相の才ありと後仁傑の薨るに及びて柬之を舉げて相となす帝晩年政を親らせ易之、昌宗益威福を恣にせり柬之依て帝の疾に寢するに方て崔玄暉、敬暉、桓玄範、袁恕已、及び李多祚等と謀り宮中に入りて易之、昌宗を斬り帝に迫りて位を太子に譲らしえたり帝是歲崩す年八十二なり凡唐を易へて周となし者十六年を太子帝位より上りて國號を舊し復し韋氏を皇后となす初め帝の廢せられて廬陵に在るや韋氏と艱苦を同くし相約して曰く他日再び天日を見む其爲す所に任せむと是に至て后遂に朝政を興り聞くに至れり帝の女安樂公主武三思の子崇訓に嫁せしより三思宮禁より出入して韋后と通す向きは張柬之等の二張を誅せし時三思を除くを勧めたる者ありしが其言を用ひず遂に武氏の勢を以て再び振はしむるに至れり韋后三思と共に柬之等を誣告し遂に帝に勸め



韋氏の專  
恣

て東之等を遠貶し又之を殺せり是より大權韋后と三思と歸し群小皆其用をなす安樂公主も亦勢に乗じ事を專にせり時に太子重俊も韋后の子にあらざるを以て其事を喜ぶ李多祚と羽林の兵を發して三思崇訓を殺し遂に宮を犯したりしか事敗れて死しぬ韋后尙其行を憐めず淫亂益甚しうは上書して其淫亂なるを云ふ者あり韋后及び其黨始めて疑懼す安樂公主韋后の朝に臨みて己を皇太女となさむを欲し共に謀て帝を弑し溫王重茂を立つ韋后自ら政を攝り多く諸韋を引きて顯要に列し其勢頗盛なり是より於て相王の子隆基其黨を除かむと欲し劉幽求等と謀り兵を率ゐて宮に入り韋后及び安樂公主を斬り又諸韋及び其黨を誅し溫王を廢して相王を立つ是を睿宗皇帝と云ふ帝隆基を立て、太子となし在位三年よりして自ら太上皇と稱し位を太子に傳ふ是を玄宗皇帝と云ふ

第四節 玄宗の政治及び安史の争亂

玄宗の叔母太平公主向に韋氏を誅する時に與りて力あり且上皇の勢により

隆基韋氏  
平く

名相の輩  
出

て權を專にし遂に其黨と廢立を謀れり帝其謀を聞きて其黨を誅し公主に死を賜ひたり是より朝廷無事にして意を政事に專にし姚崇を擧げて相となし崇權倖を抑し諫諍を納れ節儉を主とし貢獻を斥く宋璟崇につきて相となりしが務めて人を擇びて官を授け刑賞に私なかりしかは國內よく治れり然れども吐蕃は其勢頗強く則天の朝にも屢邊境に寇したりしが帝の時よ至て其將大兵を率ゐて來り寇したりしかは帝親征せむと欲し大兵を發したるをあり是より連年其侵寇止まざりき帝位に在ると久しきに及び漸く驕滿の念を生じて奢侈をなし且頗邊功を事としたりしかは國用足らぬ遂に聚斂を事とするに至れり時に班田の制漸く頽れたりしが監察御史宇文融天下の戸口を檢括せむを上請し自ら勸農使となり別に勸農判官十人を置きて天下を分行し客戸八十萬を得、田も亦是に稱ふ是より州縣大に勞擾し楊慎矜、韋堅、王鉞の徒相つきて聚斂をなし、かは人民も亦愁怨するに至れり宋璟の後張嘉貞、張說、李元紘、杜暹、韓休、張九齡等相つきて相となりしが九齡相を罷めて

姦臣の聚  
斂



李林甫の  
執政

李林甫の相となるに及ひて朝廷の風も一變し各位を保つのみにてまた時事を直言する者なかりき林甫柔佞にして狡黠、頗權數あり深く官宦及び妃嬪に結びて帝の動靜を探知す是によりて奏對する毎に帝の旨に稱ひしかば益帝の信任を受け遂に十九年(開元二十二年より天寶十二歲に至る)の間政を專にし天下の亂を養成せり帝又太子瑛鄂王瑤光王琚を殺し壽王瑁の妃楊太眞を宮に入れて貴妃とあす貴妃容色並ひ優れたりしかば後宮の寵を專にし其兄楊銛從兄釗及び姉虢國韓國秦國の三夫人も亦勢に乗じて驕侈を極めたり

楊氏の專  
寵

初め張守珪幽州節度使となりて奚契丹を拒きしが其部下に安祿山と云ふ者あり本營州の雜胡なりしが驍勇にして膽力に富めり守珪その曾て敗軍の罪よりて斬に處すべきを才勇を惜みて京師に送れり帝も亦遂に其罪を許し營州の都督とあせり祿山常よく帝の左右に事へたりしかば左右争ひて其才を稱す帝も亦益祿山を賢とし數年の間に平盧の節度使となし又范陽の節度使を兼ねし(天寶元年)遂に又御史大夫を兼ねし(同六年)東平郡王となし河

安祿山の  
寵

北道の採訪處置使を兼ねしむるに至れり(同九年)帝益祿山を信寵し其爲めに第を京師に起して華麗を極めし祿山先づ貴妃の意を得て帝の寵を固くせむとし禁中に入る毎に先づ貴妃を拜し帝其故を問ひ、即曰く胡人母を先にして父を後にすと諂諛の巧なるを此の如し屢宮掖に出入し醜聲外に漏るゝに至るし帝意に介せず又祿山をして河東の節度使を兼ねしめたり祿山竊に反謀を貯ひたりしが李林甫に警服して敢て發せし林甫の薨して楊國忠(即楊釗なり)の相とあるに及ひて復憚るものなかりき國忠帝を謂て曰く祿山必反せむ試みに召さし必來らさらむと帝依て祿山を召し、は祿山直ちに來りしかば帝毫も疑ひを左僕射を加へて歸らしめたり(同十三年)翌年祿山部下の蕃將を以て漢將に代えむを請ふ帝猶疑ひし祿山又馬三千匹を獻せむを請ふに及ひて帝初めて之を疑ひ使を遣ひして其獻を止めしむ祿山曰く馬獻せざるも亦可なり明春洛陽に至らむと遂に兵を擧げて反し、所部の兵及び奚契丹の兵凡十五萬人を發して南下す時に國內承平にして百姓戰を知らず皆其風

祿山の反



玄宗の出奔

を望みて瓦解せり祿山進て洛陽を陥れ大燕皇帝と僭號す平原(山東省濟南府)の太守顏真卿常山(直隸省正定府)の太守顏杲卿相つきて兵を起し王事し勤めたりしが杲卿ハ賊將史思明ハ虜マせられ洛陽マ送られて殺されたり既にして朔方の節度使郭子儀河北の節度使李光弼史思明を破りて河北の數郡を復したれと賊勢益猖獗なりき兵馬副元帥哥舒翰賊と潼關に戰ひて大敗す賊遂に關中に入り長安に向ふ帝依て出奔して馬嵬(陝西省西安府興平縣西にあり)ハ次す將士皆怒りて楊國忠を殺し又帝に逼り貴妃を縊殺して發す帝遂に成都に赴く時に父老道を遮りて留らむとと請ふ帝依て太子亨をして慰撫せしむ父老又太子の馬を擁して行かめず太子遂に靈武(甘肅省靈州)に至り帝の意によりて位に即く是を肅宗皇帝と云ふ是に於て前帝を尊ひて上皇天帝となす帝李泌を召して共マ事を謀り使を遣はして回紇の兵を借らむとす(時に回紇は突厥の地に據りて大に勢力を有せり)帝南鳳翔に至るに及びて回紇の葛勒可汗の子葉護兵四千人を將ゐて至れり是マ於て兵馬元帥廣平王俶及ハ副元帥郭子儀朔方の軍と回紇の衆とを率ゐて賊を

長安洛陽を復す

安慶緒の死

史思明の死

擊破し遂マ長安を復す是より先き賊將尹子奇睢陽を圍みたりしが城將張巡許遠よく守り賊をして淮水を渡らしめさりき然るに城中食盡きて城遂マ陥り巡遠等皆執へられたり①然れとも官軍の勢益強く又進みて洛陽を復す時マ安慶緒既マ其父祿山を弑して自立したりしが遂マ鄴マ走れり帝依て長安に入り上皇も亦成都より還れり(至徳二年)帝又郭子儀等の九節度使に命じて安慶緒を討たしむ史思明范陽より來り援ひて九節度使の兵を破り遂マ慶緒を殺し范陽マ還りて大燕皇帝と僭號し又兵を出して洛陽を取れり時に李光弼郭子儀マ代りて朔方の節度使兵馬元帥となりしが思明を伐ちて大に其軍を破れり尋て思明の子朝義其父を弑して自立し其勢漸く衰へたり初め張皇后李輔國と相表裏して權を專マし上皇を西内マ移し遂マ崩するを致す后晩年マ及びて輔國と隙あり帝の疾めるに及びて太子豫に輔國を誅せむとを勧めたりしが太子さかぢ既にして帝崩したりしかハ輔國后を弑して太子を立つ是を代宗皇帝と云ふ帝輔國を誅し雍王适を兵馬元帥となし僕固懷恩を副元



史朝義を平く

帥となし諸將及び回紇の兵を將ねて更し史朝義を討たしめ洛陽を復せり朝義連戦利あらず奚に走らむとしたりしが其將李懷仙に殺されたり是より於て賊將皆降り内亂初めて平定するに至れり然れとも此の内亂に際して盡く邊兵を徵發したりしかは邊備完からず外蕃の入寇を招きより帝の世より吐蕃盡く河西隴右の地を陥れて遂に奉天に寇す帝又雍王适を關内元帥となし郭子儀を副元帥となして守備をあさしむ吐蕃進て渭水を渡りしかは帝出て、陝州に奔れり是に於て吐蕃長安より入りしが郭子儀等の來り攻むるを聞きて逃れ去る帝依て長安より還るを得たり尋て僕固懷恩叛し回紇吐蕃の兵を率ゐて入寇す帝郭子儀をして奉天を守らしめたりしが敵兵進て奉天に逼り又道を分ちて進寇す子儀等兵を出して其要衝を扼す既にして懷恩疾て死しよりしかは吐蕃と回紇と相和せむ子儀依て回紇の軍より赴きて共より吐蕃を伐つ約を定めて還りしが吐蕃之を聞きて遁れ去れり後和を修めたりしが侵寇尙止まざりぎ又南詔も屢入寇し遂に雲南の地を據有せりかく外寇相つきたるか

吐蕃の入寇

上に内への又藩鎮の禍起れり

① 睢陽の圍

賊將尹子奇の河南を侵すや張巡睢陽城に入り城將許遠と共に力を併せて固守す子奇城を攻めたれど下らず依て久圍の策をなせり既にして城中食盡きしかは或は城を棄て、東に走らむと云ふ巡遠曰く睢陽は江淮の保障あり若し之を棄て、去らむ賊必勝に乘して長驅せむ果して然らむ是れ江淮なきに同じ如かす堅く守りて援兵を待たむにいと遂に城守の策を決し茶紙を食ひしに茶紙皆盡きぬ馬を食ひしに馬も亦盡きぬ鼠を掘り雀を羅して食ひしに雀鼠も亦盡きぬ巡は遂に愛妾を殺し遠は奴を殺して士卒に食せしめ然る後に城中の婦人及び男子の老弱なる者を食ふ向きに四萬に満ちし士卒も僅に四百を餘すのみありしかど一人の叛く者なかりき賊の城に登るに及びて將士皆病みて戦ふ能はず巡西に向て再拜して曰く臣力竭きて城を全くする能はず生きて既に陛下に報するなし死して當に厲鬼となりて賊を殺すべしと城遂に陥りて巡遠皆執へられたりしが後遂に殺されぬ

第五節 藩鎮の盛衰



唐の初に諸州重要な地は都督府ありて節度使と稱する者ありしが睿宗の時に至り初めて節度大使の名あり玄宗の時には邊境に十節度使（盧龍、范陽、河東、朔方、隴右、河西、劍南、嶺南、安西、北庭）を置きて外蕃の防禦をなさしめたり是より各數州の甲兵を領し財賦を恣し隠然勢力を有するに至れり且安史の亂より後には内地も皆節度使を置きたりしかの諸州の軍政は皆其掌中歸し遂に唐室の禍をなしたりき

初め安史の亂は平盧の將劉客奴、董晉、王玄志等朝廷に歸したりしかの肅宗客奴を平盧の節度使となし名を正臣と賜ふ既にして玄志正臣を酖して之の代りしが玄志の卒するに及ひて其將李懷玉、玄志の子を殺し侯希逸を推して平盧軍使となす帝依て希逸を節度使となす是より軍士の節度使を廢立するに始まれり帝又董晉の姓名を李忠臣と賜ひ淮西の節度使となす尋て希逸を淄青に移し平盧の稱を兼ねしめたり安史の亂平くは及ひて代宗賊の降將李懷仙を盧龍の節度使に田承嗣を魏博の節度使に李寶臣を成徳の節度使に

薛嵩を昭義の節度使になす是より河北の諸鎮相黨援して朝命に抗したり然れども帝専ら姑息を事として復制する能はず各鎮の將士其主を追ひて自立する者あれり直ちに其官を授けたり故に平盧の將李懷玉の侯希逸を逐ふや詔して懷玉を留後となし名を正巳と賜ひ盧龍の將朱希彩の李懷仙を殺すや希彩をして鎮を領せしめたり後盧龍の將又希彩を殺し朱泚をして鎮を領せしめむを請ふに及ひて又泚を節度使となす既にして泚弟滔をして己に代らしめて入朝す是の時に方て河北の諸鎮益跋扈して朝命に従はず帝永安公主を田承嗣の子に妻にして其歡心を結はむとしたりしが承嗣益驕慢にして朝命を奉せず昭義の諸州を陥れたり帝諸道の兵を發して之を討せしむ時に李正巳の兵を按して進まず李寶臣も亦寇を玩ふ志あり帝如何ともする能はずして遂に其罪を宥せり後承嗣卒したりしかの其姪田悅を節度使となす時に淮西の將李希烈李忠臣を逐ひたりしかの又希烈を以て節度使となせり帝在位十八年にして崩し太子適立つ是を德宗皇帝と云ふ



盧杞の相

帝精を勵して政をなす涇原の叛兵を平け楊炎盧杞を擧げて相とあす杞性陰狡にして口辨あり遂に政權を專にし朝廷の政を亂るに至れり

諸鎮の黨  
援

成徳の李寶臣卒して子の惟岳自ら留後と稱するや朝廷より人を除せむとす初め寶臣李正己田承嗣と相結びて土地を子孫に傳へむとを期す故に承嗣の卒せし時に共に朝廷に請ひて田悦に代らしめたり是に至て悦も亦惟岳の爲めに繼襲せしめむとを請ひしが許されず依て李正己と謀を通し兵を率ゐて邢洛の諸州に寇す帝馬燧李抱真李晟をして之を討たしめ大に其兵を破りしか悦退きて居城を守れり時に李惟岳も亦叛したりしか帝朱滔をして之を討せしむ既にして成徳の將王武俊惟岳を殺して節度使たるを請ひ滔も亦深州の地を請ひしが許されざるを以て皆深く怨望せり田悦依て使を遣ひし二人に説かしむ二人遂に反し田悦を救ひて趙州に寇す平盧の李正己既に卒し子納位にありしが亦田悦等と謀を通す帝李懷光をして滔及び武俊を討たしめたりしが大に其兵に破られたり尋て朱滔の冀王、田悦の魏王、王武俊の

諸鎮の反

趙王、李納の齊王と稱し滔の盟主となりて孤と稱し武俊悦納の寡人と稱したりき

李希烈の反

是の時に方て李希烈も亦反し遂に襄城に寇す帝依て涇原等の兵を發して之を討せしむ涇原の兵長安を過りし時糲食菜餒を以て犒ひしか衆兵怒りて亂をかす帝太子諸王と共に奉天に出奔せり時に朱泚太尉となりて長安にありしか亂兵泚を奉して主となす泚大秦皇帝と僭號し滔を立て、皇太弟となし遂に奉天を犯す李晟兵を率ゐて赴援し李懷光も亦來援して泚の兵を破りしか泚遂に奉天の圍を解きて長安に還れり懷光奉天に至りて盧杞等の姦邪を白さむとし杞に隔てられて見ゆる能はず依て上表して杞の姦を訴ふ時に杞等を咎むる者多かりしか帝已むを得ずして杞を貶す陸贄帝に勸めて已を罪する詔と下して天下に大赦す是に於て王武俊、田悦、李納上表して罪を謝し皆王號を去れり然れとも朱滔は兄の故を以て尙歸降せず李希烈は富強を恃みて大楚皇帝と僭號せり時に李懷光朝廷に迫りて盧杞を斥けたる

朱泚の反



李懷光の反

を以て内自ら安せず遂に朱泚と謀を通じて奉天を犯す帝又梁州に出奔せり  
既にして李晟長安を克復す朱泚吐蕃に走らむとして涇州に至り其將を殺さ  
れたりしかの帝依て長安に還れり時懷光河中にありて渾瑊馬燧等と戦ひ  
しが利あらざ部下背叛する者多く遂に自ら縊死す朱滔も亦病に罹りて死  
たりしかは劉怱代りて節度使となれり李希烈は其兵勢大に蹙まりしかは其  
將陳仙奇之を殺して降れり帝依て仙奇を以て節度使となす幾もなくして其  
將吳少誠又仙奇を殺したりしかは更に少誠を留後とせり後少誠の反する  
に及びて韓全義をして之を討たしむ全義戦はせりて潰えたりしかは帝遂に  
少誠を赦す是の時藩鎮の勢尙盛なりき帝在位二十一年にして崩る太子涌立  
つ是を順宗皇帝と云ふ帝在位僅に八ヶ月にして位を太子純に傳ふ是を憲宗  
皇帝といふ

藩鎮の勢尙盛あり

帝聰明英毅にして天下を治めむとする志あり曾て同平章事杜黃裳と藩鎮の  
ことを論す黃裳曰く陛下綱紀を振はむと欲せば稍法度を以て藩鎮を裁制すべ

憲宗の政策

しと是より大に姑息の政策を改めて藩鎮に對したり西川の節度副使劉闢の  
反するや高崇文を命じて之を討たしめ遂に成都に克ちて劉闢を擒にす又夏  
州の留後楊惠琳朝命を拒みしが其兵馬使張承全に殺されたり尋て武元衡李  
吉甫同平章事となりて政をなす朝廷の勢頗盛かりき帝鎮海の節度使李錡を  
徵し、に錡至らず依て又諸道の兵を發して錡を討たしむ既にして其兵馬使  
張子良等錡を執へて京師に送致す是に於て藩鎮稍朝廷を畏るゝに至れり

藩鎮の惕息

帝河北諸鎮の世襲の弊を革めむと欲し成徳の王士眞の死せるに方て朝廷よ  
り人を叙せむとす李絳曰く盧龍劉怱の子劉濟節度使たり魏博田悅の子田季安節度使たり淄青李納の子李師道節度使たりの諸鎮成徳と相鄰れば必相黨援して朝命を抗せむ故に先づ淮西を伐  
たむに如かずと帝其言を用ひず士眞の子承宗の朝命を拒むる及びて其官爵  
を削奪し吐突承瓘に命じて之を伐たしむ田季安果して陽に朝廷を輔けて陰  
に承宗と謀を通ず既にして承瓘戦利なきを以て罷められたり承宗も使を  
遣はして罪を謝し李師道も亦屢其罪を許さむを請ふ帝師の功なきを以て

河北諸鎮の黨援



淮西の役

己むを得ず承宗を宥く悉く諸道行營の將士を罷めたり後田季安卒し其子懷諫幼弱なりしうは帝田興を拜して留後となし尋て節度使となす又斐度を遣はして宣慰し錢百五十萬緡を賜ひて六州の百姓を給復し且田興の名を弘正と賜ふ是より諸鎮益朝廷に歸向する意ありき(元和七年)

初め淮西の吳少誠死して弟少陽之に代りしが後少陽死して子の元濟自ら軍府を領し兵を縦ちて東都の近傍を侵畧す(同十一年)帝李光顔等を將とし諸道の兵を率ゐて淮西を討たしめたりしが數年功をなさず斐度淮西を巡視して還り其取るべきの狀を言ふ帝依て兵事を度と武元衡とよ委す李師道等屢元濟を許さむとを請ひしが帝許さず賊を討するを益急なり師道謂らく度と元衡とを殺さは佗は天子に勸めて兵を罷むるからむと遂に刺客を遣はして元衡を殺し度を傷く帝大に怒りて賊を討つを益烈く度をして彰義の節度使を兼ね淮西の宣慰使とあり諸軍を督して三道より進討せしむ既にして西面の將李愬降將の計を用ひて雪夜に敵城に入り遂に元濟を擒にし淮西を平けたり

藩鎮の歸順

①是より於て人を遣はして王承宗に諭し、に承宗質を納れて德棣の二州を獻す幽州の劉聰(劉濟の子)も亦歸順したり然るに李師道は刺客を用ひて元衡を殺したるを以て尙朝廷に服せざりき帝依て李愬田弘正等をして師道を討たしめ屢其兵を破りしが敵將劉悟師道を殺して其首を弘正の營に送り凡藩鎮跋扈するを六十餘年、黄河の南北に亘りしが是に至て悉く朝廷の約束に遵ふに至り帝是より稍驕恣に陥り皇甫鎛を同平章事とあはたりしかは朝廷の政漸く衰へより帝晩年頗神仙を好みて道士を信し丹藥を服して躁怒を致し在位十六年にして宦官陳弘志に弑せられたり是より後宦官益盛にして且朋黨の争起り藩鎮の跋扈と共に唐室滅亡の基となれり

①淮西の戰

元和十二年十月李愬自ら兵を將ゐて文城を發し行く所を告げず唯曰く東行せよと行くを六十餘里(支那里)法にして張柴村に至り盡く其戍卒を殺し士卒と分ちて之を守らしめ以て諸方の救兵を斷ち夜また兵を率ゐて出づ諸將其行く所を問ふ愬曰く蔡州に入りて吳元濟を取るなりと諸將皆驚きて色



を失ふ時に風雪烈く人馬凍死する者相望み且張柴村より東の道は官軍の知らざる所なれば人皆危み懼れたり然れども愬を畏れて敢て違ふ者亦かりき夜半に至りて雪の降ると益盛かりしが愬毫も顧みず又行くと七十里にして州城に至れり城の近傍の鵝鴨池を驚かして軍聲を混したりしかは敵兵一人の知る者亦かりき是に於て遂に城に上りて元濟の外宅に據れり或人官軍の至れるを元濟に告げしに元濟以て意となさず又城陥れりと告ぐる者ありしに又以て意とあさず既にして愬の軍の號令を聞きて始めて驚駭し牙城に登りて拒き戦ひけるが遂に利あらず降を乞ふ愬依て元濟を執へて長安に送れり是に於て淮西初めて平さぬ

第六節 宦官の跋扈及び朝臣の朋黨

唐の初めは宦官の數少なく且位卑くかりしかは絶えて勢力なかりしが中宗の時に至ては嬖倖頗多く七品以上の宦官千餘人あるに至れり玄宗の時は高力士楊思勗等信寵を受け宦官の數三千人に上り京畿の田園は大半其所領に歸したり是より後は宦官の勢漸く盛にして肅宗の時には李輔國の玄宗上皇を幽したるにあり代宗の時よは魚朝恩の郭子儀を譖し程元振の來瑱を

宦官專恣の起原

宦官憲宗を弑して穆宗を立つ

宦官敬宗を弑して文宗を立つ

譖し斐冕を斥けたるにあり然れども前後誅せられたる者多く跋扈するに未だ甚しきに至らざりき德宗の時に及ひて宦官をして禁軍を掌らしめ又政務に參せしめたるより其勢益強く弑逆廢立を恣にせり憲宗既に陳弘志を弑せられたりしかは宦官相謀りて太子恒を立つ是を穆宗皇帝と云ふ帝皇甫鏞を斥け道士を殺したれども聲色を縱にして紀綱を修めず在位四年にして崩し太子湛立つ是を敬宗皇帝と云ふ帝も亦荒淫にして政を嬖倖に委し且性偏急にして屢宦官を捶ちたりしかは宦官皆帝を怨みたり帝一夜獵より還りて宦官蘇佐明劉克明等二十八人と共に酒を飲みしが佐明等遂に帝を弑し制を矯めて絳王悟を立つ時に宦官王守澄樞密使たりしが佐明等の弑逆を聞き禁軍を率ゐて賊を討し絳王を殺して江王涵を立つ是を文宗皇帝といふ帝江王たりし時より深く前朝の弊を知りしかは位に即くに及ひて奢侈を斥け節儉を尙び宮女を出し鷹犬を減し精を勵して治を圖れり然れども宦官の勢益盛にして朝廷を蔑にし王守澄の如きを最專横にして貪濫



文宗宦官を誅せむとを謀る

なりき（帝の舉人を親策するに方て劉蕡と云ふ者宦官の弊を極言したりしかば）帝依て同平章事宋申錫と宦官を誅せむとを謀れり既にして其謀漏れたりしかば王守澄申錫の謀反を誣告し開州の司馬に貶せしめたり其後帝又鄭注李訓と宦官を誅せむことを謀り宦官仇士良を進擢して左神策中尉となし以て王守澄の權を分ちたり尋て注は守太僕卿、兼御史大夫となり訓は禮部侍郎、同平章事となりしが訓心に注を忌みて中外勢を合すべしと稱し注を出して鳳翔の節度使となす既にして中使を遣はし守澄を鳩殺したりしかば注其部下の壯士數百を送り守澄の葬を護せしめて悉宦官の會葬者を殺さむとす訓思、らく此の如くなれば功獨注に歸せむと別に自ら宦官を誅せむとを謀れり一日帝紫宸殿に御するに方て訓人をして奏せしめて金吾聽事の後なる石榴に甘露降りると云ふ帝先づ宰相を遣はして觀せしめ尋て仇士良をして諸宦官を率ゐて往かしむ士良等聽事に至り兵を執る者あるを見て大に驚き走り還りて變を告ぐ訓謀の顯はれたるを知り金吾の衛士を呼て僅に宦官十餘人を

甘露の變

宦官武宗を立つ

殺し事の成らざるを知りて走れり士良等禁軍に令して金吾の吏卒を殺し又宰相王涯賈餗舒元興等を執へて腰斬す李訓鄭注も亦捕はれて殺されたり是より宦官の勢益盛にして天下の事は皆内侍省に決し宰相は文書を行ふのみ帝も亦鬱々として志を行ふを得ず在位十五年にして崩するに至れり士良等太子成美を廢して穎王灑を立つ是を武宗皇帝と云ふ  
文宗より武宗の時に亘りて朝廷には更に朋黨の争ありき初め穆宗の時に李德裕翰林學士たりしが中書舍人李宗閔と隙あり考試の事によりて宗閔を搆ふ宗閔依て劍州の刺史に貶せられたり是れより各朋黨を立て、相争ふに至れり文宗の時に及びて德裕は兵部侍郎、宗閔は吏部侍郎たり時に斐度德裕を薦めて相となさむとしたりしが宗閔先づ宦官の助によりて相となれり宗閔德裕の已に迫るを恐れ出して義成の節度使となし武昌の節度使牛僧孺を引きて同平章事となす盖僧孺の德裕と隙あるを以てなり是れより二人力を併せて德裕の黨を排斥せり尋て德裕を移して西川の節度使となす時に吐蕃

朋黨争轢の起原

李宗閔牛僧孺と共に李德裕を排す



朋黨の怨益深し

徳裕宗関と内閣に出入す

尙屢邊に寇したりしかは徳裕士卒を鍊り堡障を修め大に心を邊防に致す會吐蕃の將悉怛謀維州を以て降を請ふ徳裕其地を得は大に唐の利となるべきを以て遂に其降を受けて狀を奏す然るに牛僧孺は其降を納れず却て吐蕃の怨を買はむとて遂に其地と叛將とを歸さしむ是より朋黨の怨隙愈深くなり(同五)既にして僧孺の策の非を論する者多く徳裕の功を疾みて反對したるなりと云ふ者ありしかは文宗僧孺を出して淮南の節度使となし徳裕を召して兵部尙書となし遂に同平章事となす又宗関を出して山南西道の節度使となす(同七)然るに王守澄等徳裕と善からず依て又宗関を引き中書侍郎同平章事となせり徳裕と鎮海の節度使となりしが又宋申錫の事に關係ありとせられて袁州の長史に貶せられたり宗関も亦事によりて明州の刺史に貶せられ遂に潮州の司戸となれり蓋李訓鄭注の意ありといふ李訓等の死に及びて宗関徳裕各別官より遷り牛僧孺は東都の留守となりしかは武宗の時に至て徳裕は淮南節度使より入りて相となれり

徳裕相となりて昭義を平く

徳裕勢を得て宗関僧孺を貶す

朋黨の論止む

初め昭義の節度使劉從諫朝廷と相猜恨し遂に亡命を招納し兵器を繕完し竊に反意ありしか従諫死し姪劉稹自ら軍府を領せむと欲す帝其事を宰相に謀りしに多くは其意に任せむと云ふ徳裕獨曰く昭義は河北の三鎮と事體を同くせず河北は歷朝度外に置けるも昭義を近く心腹にあり若し漫に其自ら領するに任じさらむには威令諸鎮の間に行はれずと依て河北三鎮及ひ河陽河中河東の諸鎮に命じて之を討たしむ既にして昭義の將稹を殺して降りしかは叛亂初めて平きたり是より徳裕の勢甚盛にして太尉衛國公となり遂に舊怨を報せむと欲し牛僧孺を貶して循州の長史となし李宗関を封州に流したり帝在位七年にして崩したりしかは宦官馬元贄等相謀りて光王怡を立つ是を宣宗皇帝と云ふ時に牛僧孺衡州の長史に遷り李宗関柳州の司馬に遷れり徳裕も亦勢を失し出て、荆南の節度使となりしが又東都の留守となり遂に潮州司馬より崖州司馬となれり三人の死するに及びて朝臣の朋黨初めて止みしが其軋轢の間前後四十年に亘れり然れとも宦官の專恣は益甚しかりし



宦官懿宗を立つ

りは帝令狐綯と謀りて悉く宦官を誅せむとす綯曰く罪あれば宥さず缺あるも補はされは自然に消耗して盡くるに至らむと宦官其奏を見て益朝士を悪み專横至らざる所なかりき帝在位十四年よして崩し宦官王宗實等又詔を矯めて鄆王温を立つ是を懿宗皇帝と云ふ

第七節 海内の争亂及び唐室の滅亡

懿宗の時に至て奢侈に耽り賦歛を急にしたるのみならず水旱相重りしかは人民流離し盜賊四方に起り且南詔屢入寇し唐室の勢益衰へたり是に於て裘甫は浙東に起り江南の諸州を侵擾し其勢甚盛なりしかは帝王式を浙東の觀察使となして甫を討たしむ式遂に甫を破りて其亂を平けたり然れどもまた徐州には龐勛の亂起れり初め南詔の入寇するに方て徐泗の兵を發して赴援し且別に桂州廣西省桂林府を守らしめて三年更代の約をなす然るに期を過ぎて更代せしめざりしかは其將士大に怒りて亂をなし糧料判官龐勛を奉じて主となし湖南に至り舟を浮べて江を下り淮南に入り遂に徐州に至り觀察使徐

龐勛の亂

裘甫の亂

宦官僖宗を立つ

彦曾を殺し徐城に據りて諸州を下す其勢猖獗にして官軍屢利を失ふ既にして康承訓招討使となり沙陀の朱邪赤心を前鋒となし其力によりて遂に其亂を平けたり帝依て赤心に姓名を李國昌と賜ひ大同の節度使となし尋て振武の節度使となす是れ其子孫の勢力を得る初めなりき帝在位十五年にして崩したりしかは宦官劉行深韓文約等又相謀りて晋王儂を立つ是を僖宗皇帝と云ふ時に兵革屢起りて國用足らず賦歛愈急なりしかは百姓困窮して所在相聚りて盜をなすに至れり

王仙芝の亂

濮州の人王仙芝兵を曹濮の間に起す曹州の人黄巢も亦衆を集めて仙芝に應ず數月にして衆數萬人あり仙芝曹濮鄭汝郢復の諸州を下し鄂安隋の諸州を陥れて荆南に寇したりしが招討使曾元裕に破られて敗死したり然れども黄巢の勢益盛にして鄆沂の諸州を陥れ宋汴を掠め江を渡りて虔吉饒信洪の諸州を下し又宣州に寇し浙東に赴きしが宣歙の觀察使王凝に破られ遂に福建の諸州を掠め廣南に走りて廣州を破れり既にして桂州より湘江を下り潭

黄巢の亂



黃巢の僭號

州を陥れ江陵を攻め又江を渡りて襄陽に向ひしが荆門に破れて南走し再江を渡りて宣州を下す是に於て其勢また盛になり更に江を渡り淮を過きて申州を陥れ遂に洛陽を取り勢に乗じて潼關を破り長安に入りしか帝蜀に出奔す巢依て皇帝の位に上りて國を大齊と號す盖其兵を起してより是に至るまで六年なりき

かく南方には騷亂相つきしが北方にも亦李國昌の亂ありき初め國昌の子克用驍勇にして膽畧に富み兵馬使となりて蔚州に在りしが部下の諸將相謀りて曰く方今天下大に亂れて朝廷の號令四方に行はれず是れ英雄の功名富貴を謀るべき秋なり李振武の名は天下に高く且其子の勇は諸軍に冠たり若し相輔けて事を舉げなは代北の地を平くるは難からむと遂に克用に説きて雲州を取り又沂代に寇し晋陽に迫りたりしか盧龍と蔚朔との兵に破られ克用父子は韃靼に逃れしり帝黃巢の勢の猖獗なるを以て復沙陀の力を借らむと欲し克用の罪を赦して黃巢を討つとを命す克用大に喜び沙陀の兵を率ゐて

克用黃巢を討つ

朱全忠克用を襲ふ

來り連戰賊を破りて長安を復す巢宮室を焚きて蔡州に走り遂に汴州に赴きしがまた克用等に破られ遂に其下に殺されしり是に於て爭亂初めて平き帝また長安に還れり克用の汴に至りし時に黃巢の降將朱全忠宣武の節度使となりて汴にあり事によりて克用を襲ふ克用纔に免るを得ぬれと是より朱李の爭始まれり

近畿の亂

黃巢の亂に際して東北の諸鎮は相攻伐して人民を憂へす朝廷にハ尙宦官の權を恣にするありて唐室の勢益衰へたり宦官田令孜帝の出奔の時に功ありしを恃みて頗權を專にし河中の節度使王重榮を移して秦寧の節度となさむとす重榮命をさかす令孜依て邠寧の節度使朱玟鳳翔の節度使李昌符をして重榮を攻めしむ重榮救を李克用に求む時に克用河東の節度使となりて晋陽にありしが朝廷の朱全忠を罪せざるを怨み遂に兵を率ゐて河中を救ひ朱玟の軍を破りて長安に逼りしかは令孜帝を却して鳳翔に奔り尋て興元に奔れり克用河中に返りて重榮と共に令孜を誅せむとを上請す朱玟李昌符も亦令



宦官昭宗  
を立つ

孜を悪みて更に克用重榮に合す孜別に肅宗の玄孫襄王焜を立て、帝となし  
たりしが昌符孜の専權を悪みて反て興元に通す克用も亦重榮と共に孜を攻  
む尋て孜の其將王行瑜に殺され焜の河中に奔りて重榮に殺されたり帝田令  
孜を端州に流しまた長安に還りしが幾もなくして崩しぬ在位十五年なり是  
に於て宦官楊復恭等又壽王傑を立つ是を昭宗皇帝と云ふ  
帝頗英邁にして恢復の志あり楊復恭を討ちしかの復恭興元に奔り鳳翔の  
節度使李茂貞華州の節度使韓建擅に兵を興して興元を伐つ尋て帝李茂貞の  
驕横を怒りて鳳翔を攻めむとす茂貞依て邠寧の節度使王行瑜と合し官軍を  
破り進みて長安に逼りしかの帝已むを得ず宰相を斥けて謝す是より京畿の  
諸鎮益跋扈せり既にして李茂貞韓建王行瑜また兵を舉げて長安に入り宰相  
を殺し將に帝を廢して吉王保を立てむとしたりしか李克用の大兵を率ゐて  
來り援ふを聞きて去れり克用邠州を攻めて行瑜を破り將に兵を岐華に移し  
て茂貞と建とを討たむとす時に貴近の臣沙陀の勢の大に盛ならむと恐れて

近畿の争  
亂、克用  
の來援

宦官昭宗  
を幽す

岐華を討つを止め克用の爵を進めて晉王となし晉陽に還らしむ是に於て茂  
貞また兵を將ゐて長安を犯し、かの帝華州に出奔して韓建に依れり建權を  
專にして宦官劉季述と共に諸王を殺す克用依て兵を遣ひして帝を救ふ時に  
朱全忠は盡く近傍の藩鎮を服従し其勢甚盛にして洛陽に營みて車駕を迎へ  
むとす韓建等大に懼れて遂に帝を長安に還せり帝同平章事崔胤と謀りて宦  
官を除かむとす是より宦官益朝士と軋轢し互に藩鎮に結びて相謀り既に  
して宦官左軍中尉劉季述右軍中尉王仲先帝を少陽院に幽して太子裕を立つ  
崔胤依て神策軍將に説きて季述仲先を誅し帝をして位に復らしめたり胤遂  
に宦官を誅せむと謀りしかは宦官竊に胤を去らむとす時に朱全忠天子を挾  
みて天下に號令せむとする志あり胤依て書を以て全忠を召す全忠機失ふ可  
からすとなし兵を率ゐて長安に赴く韓全誨等帝を劫して鳳翔に往きて李茂  
貞に依れり全忠從て鳳翔を圍みしかを茂貞全誨等を殺して全忠と和解す全  
忠帝を奉して長安に還り悉く宦官を誅殺し宮人をして詔命を傳へしめ又崔

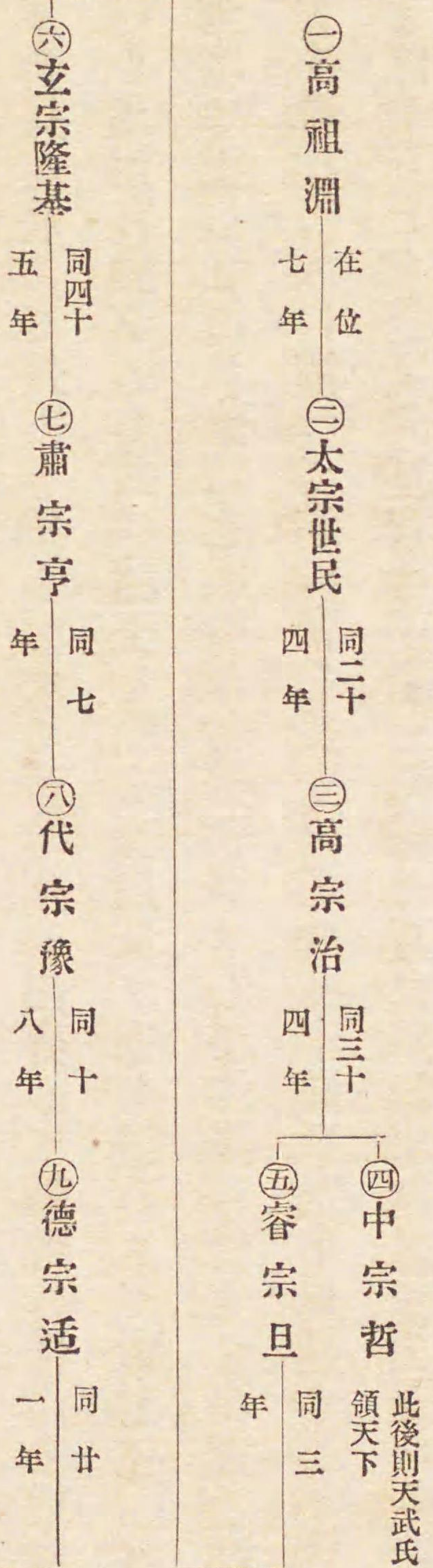
全忠宦官  
を誅す



全忠の篡立唐室の滅亡

胤をして兵柄を握らしめ遂に梁王の爵を受けて汴に還れり是の時に方りて全忠の勢益盛にして竊に篡奪の志ありき崔胤全忠と外相和して内相善らず全忠依て其黨をして胤を殺さしめ又帝に請ひて都を洛陽に遷し遂に帝を弑して其子祚を立つ是を哀皇帝と云ふ全忠廢太子裕等九人を殺し自ら相國となり遂に帝に逼りて位を禪らしめ都を汴に定めたり是を梁の太祖皇帝と云ふ唐凡二十世二百九十年にして亡ひぬ

唐の帝系

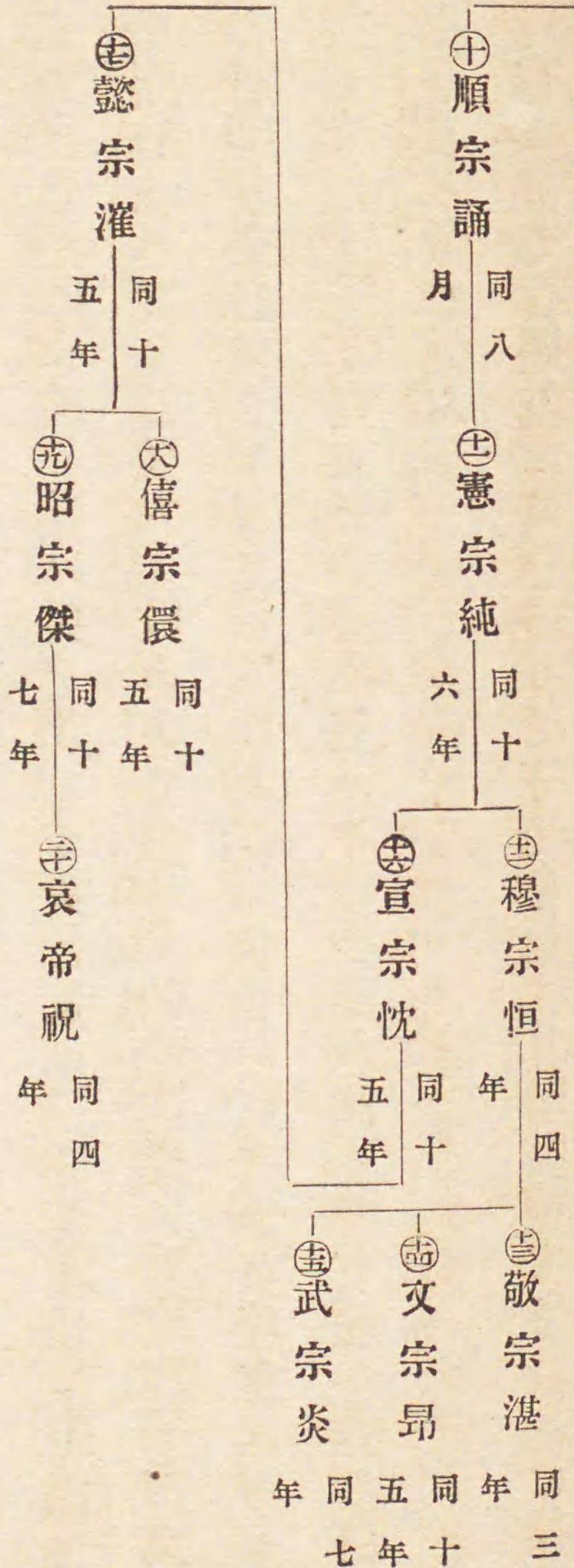


梁初の形勢

梁の太祖の位に即くに方て藩鎮の各地に割據せる者甚多し淮南の節度使楊行密は淮南に在りて吳王となり西川の節度使王建は蜀に據りて蜀王となり鎮海の節度使錢鏐は兩浙に據りて吳越王となり威武の節度使王審知は閩に據りて閩王となり清海の節度使劉隱は兩廣に據りて南漢王となり武安の指揮

第三章 五代の更迭

第一節 梁唐の交争及び其興亡





李存勗梁軍を破る

存勗燕を滅す

太祖の死

使馬殷は湖南に據りて楚王となり盧龍の節度使劉仁恭は燕に據りて燕王となり各獨立國の勢を有し李茂貞李克用も亦已に各王と稱したりき帝位に即かざる時より李克用と善からず屢相争ひて其數州の地を取り前後再晉陽を圍みたりしが是に至て遂に其官爵を削奪し康懷貞等をして潞州を攻め其將李嗣昭を上黨に圍ましめたり時に李克用卒して子の存勗立ち諸將と謀り急に兵を引て潞州を救ひ大に梁軍を破れり是に於て北方の諸鎮存勗を推して盟主となす是より存勗の勢益強く梁兵の鎮州の諸郡を取るに及ひて又之を栢郷に破り遂に兵を將りて劉仁恭の子守光を伐つ帝依て兵を將りて燕を救ひむと又大に敗られて還れり帝性淫虐にして假子友文の妻を寵し將に友文を立て、嗣となさむとしたりしかの次子友珪遂に帝を弑して自立を時に三子友貞東都の指揮使たりしが兵を起して友珪を誅し自ら位に即く是を末帝といふ

帝の時より方て存勗既に燕を破りて守光を執へ其勢益盛なりしかは梁の魏博

存勗梁を侵す

存勗の即位梁室の滅亡

の節度使賀德倫其所領の州を以て晋に降り救を乞ふ存勗依て魏博に至り更に兵を出して德澶二州を抜く帝劉鄩を遣はして晋軍を拒く鄩晋軍と相持たりしが竊に兵を率りて晋陽を襲ひむとて果さず又魏州を攻めて晋軍に破られたり帝更に王檀を遣はし陝華諸州の兵を發して晋陽を攻めしめしが復勝たざりき存勗屢梁を攻めて楊劉（山東省泰安府東阿縣）を取り遂に大舉して胡柳（直隸省大名府開州）に南北の兩城を築き又鄆州を取れり帝王彥章を將となして晋軍を撃たしむ彥章急に兵を引きて德勝に至り其南城を抜き又諸寨を破り遂に進みて楊劉を攻めたりしが克たず後又鄆州を攻むるに及び存勗の來り援ふに會し大に敗れて擒に就けり晋軍進みて大梁（汴京）に入りしかを帝人をして己を殺さしめたり是より先き存勗傳國の璽を得て帝位に即きぬ是を後唐の莊宗皇帝といふ梁凡二世十七年にして亡ひぬ

帝既に梁を滅して大梁に都し尋て洛陽に遷れり時に岐王李茂貞の使を遣は



莊宗の荒政

して入貢す蜀主王建は既し卒し子宗衍淫洵しして國內治らざりしかん帝皇子繼笈と樞密使郭崇韜とを遣はして蜀を滅さしめたり是より益驕恣の念を生じ志を政治に留めず常に音律を好みて伶人を寵任す伶人寵を恃み搢紳を侮弄し政事に參與しとりしかん群臣皆憤嫉せり帝又宦官を用ひて諸道の監軍となす監軍往往勢を恃みて主帥を凌きたりしかん藩鎮も亦皆怨怒せり且人民の賦税の繁を怨み兵士の賞賜の足らざるを憤り各離叛の志あり帝又讒を信じて郭崇韜を殺し諸宿將に及びしかん人皆其心を安せざりき初め魏博の兵瓦橋を守りしかん期に至りて歸らむとしかん又貝州に屯する命を受く將士依て怒て亂をなし效節指揮使趙在禮を奉じて魏博に歸り鄴都に據れり帝李紹榮をして在禮を伐たしめしかん利あらず依て又李嗣源を遣はす嗣源兵を率ゐて城下に至りしかん時從馬直の軍士亂をなし嗣源を脅して城中に入らむとす城兵外兵を拒ましかん嗣源の遂に城中に件はれたり嗣源依て詭辭を設けて在禮に説きて城を出て安重誨の言によりて闕に至りて罪を謝せむとす相州

鄴都の變

李嗣源の反

に至りしかん時李紹榮其叛を奏す石敬瑭嗣源に説くに已に叛卒と共に敵城に入りたる上は他日の安全を期し難きを以てし遂に大梁を取らむとを勸む嗣源依て敬瑭を前鋒となし養子李從珂を殿となし進みて大梁に入れり帝嗣源の叛を聞きして關東に往かむとしたりしかん大梁の既し取られたるを聞きて洛陽に還れり時し皇子繼笈の軍既に歸途にあれば宜く汜水を拒して其軍の至るを待つべしと云ふ者あり帝依てまた兵を出さむとしたりしかん從馬直指揮使郭從謙反を謀りて亂を作す帝流矢に中りて崩しぬ在位纔し三年あり嗣源洛陽に入りて監國となり繼笈の至るを待ちしかん繼笈渭南に至りて縊死す嗣源依て位し即く是を明宗皇帝と云ふ

莊宗の死

明宗の世

帝本名を邈佶烈本胡人にして克用の養子なり帝の世には安重誨の政を專にしたるとありしかん帝平生聲色を遠け遊畋を好まざりしかん海内頗平にして事なかりき帝の晩年疾あるし際し長子從榮兵を率ゐて宮し入らむとしかん皇城使安重益し斬られ帝も亦尋て崩したりしかん次子天雄の節度使從厚立つ是



李從珂の反

を閩皇帝といふ帝朱弘昭馮贇を相となす時に李從珂の鳳翔の節度使となりて鳳翔に居り石敬瑭の河東の節度使となりて晋陽に居り弘昭贇と共に從珂を忌み帝に勸めて從珂を河東に移し石敬瑭を天雄に移さむとす從珂の將佐皆曰く鎮を離れれば必危からむと遂に兵を擧げて反し君側の姦を除かむと云ふを名となし帝將を遣はして鳳翔を攻めしが軍士多く叛きて從珂に歸す從珂進みて陝州に至れば官軍皆迎へ降り帝河北に出奔す從珂洛陽に入り使を遣はして帝を殺し自ら位に即く是を廢帝となす帝曾て石敬瑭と共に明宗に仕へたりしが互に猜嫉して相善ならず時に敬瑭晋陽にありしかは帝詔して天雄に移らしめむとす敬瑭詔に從はず帝依て兵を遣はして晋陽を圍みしか下らず敬瑭救を契丹より求め表を奉じて臣と稱し約して曰く事捷たむ地を割かむと契丹主德光大より喜ひ騎兵五萬を率ゐて來り援け大に唐兵を破れり敬瑭進みて洛陽に向ふ帝戰敗れて自殺しぬ敬瑭遂に帝位に即く是を晋の高祖皇帝と云ふ唐凡四世十四年よりして亡びぬ

石敬瑭の反

唐の滅亡

第二節 契丹の來侵及び晋漢の興亡

契丹の起原

契丹は唐の時より國內に八部あり其大人三歲毎に更立して統治する例なりしか梁の時に至りて諸部相謀りて耶律阿保機を主となす阿保機豪雄にして騎射を善くと遂に七部を併せ奚渤海を破り室韋女眞を侵し又突厥の故地を取り其勢漸く強く遂に皇帝と稱す時より梁の末帝の世なりき阿保機の後蕭氏賢明にして權數あり漢人韓延徽を引きて謀主となす延徽頗契丹の爲めに力を致す是より其勢益強く唐の世に屢邊に寇したりしが明宗の時に好を通せり既にして阿保機卒して其子德光立ちしが遂に石敬瑭を救ひて唐兵を破り敬瑭を立て、晋帝となす帝遂に十六州幽薊瀛莫涿檀順新 媯儒武雲應寰朔蔚を割きて契丹に與へ且歳に金帛三十萬を贈り常に吉凶慶吊の使を遣はして其歡心を失せざらむとを勉めたり然るに成徳の節度使安重榮は帝の契丹に事ふるを卑み或は其使を執へ或は其叛民を納れたりしかは契丹の使來りて詰責す帝百方罪を謝し重榮を殺して其首を契丹に送れり帝在位の間は謹みて契丹に事へた

契丹晋を援ふ

晋契丹に事ふ



晉契丹に  
事へす

りしらは纔に事なきを得たり帝終に臨みて幼子重睿を立てむとする意ありしが同平章事馮道、侍衛馬歩都虞侯景延廣と謀りて曰く國家多難なれば宜く長君を立つべしと帝の崩するに及びて遂に齊王重貴を立つ是を出帝と云ふ景延廣定策の功によりて同平章事となり政を行ひて專恣なり高祖の喪を契丹に告ぐるに臣と稱せず且其回圖使に告げて曰く先帝の北朝に立てられたるか故に臣と稱せり今上は中國の立てたる所なれり孫と稱して足れり翁怒らへ來り戦ふべし孫に十萬の磨劍を横へて待つ者ありと契丹主大に怒りて入寇せむとす桑維翰屢遜辭を以て契丹に謝せむを請ひしが皆延廣に沮まれて果さず時に河東の節度使劉知遠延廣の寇を招くを知りて敢て言はず竊に其備をあす契丹主遂に兵を出して入寇しりしが帝自ら將となり前後兩回其兵を破れり是より帝契丹を以て恐るゝに足らずとなし頗奢侈を事とし小人を任用す朝政益衰へたり既にして契丹主また大舉して入寇したりしかの帝杜重威を北面行營都招討使となし諸軍を率ゐて之を拒かしむ重威渾

契丹晉に  
寇す

晉の滅亡

沱河に至り戦ひすして契丹に降れり是に於て契丹主長驅して大梁に入り帝及び皇后太后を執へて遂に其國に送れり晉凡二世十二年にして亡ひぬ契丹主大梁にあり胡騎を出して四方を剽掠す東西兩畿より鄭滑曹濮諸州に至るまで數百里間は財帛を絶ち丁壯老弱の鋒刃に斃れ溝壑に委したる者多かりき既にして所在群盜蜂起して亂をなしたりしかは契丹主曰く余中國の治め難きを此の如きを知らざりきと遂に兵を引きて還れり是より先き劉知遠晉陽にありて敢て晉を救はず遂に帝と稱し契丹の還るに及び大梁に入りて都せり是を漢の高祖皇帝といふ

劉知遠の  
即位

帝の位に即くに方て杜重威は天雄の節度使とかりて鄴都に在りしが表を奉じて歸降せり然れとも其曾て契丹に降れるを以て内自ら安せず鎮を歸德に移されむとするに及び遂に拒みて命を受けず且救を契丹に求む帝自ら兵を率ゐて鄴都を圍み遂に重威を降せり帝在位一年にして崩し子の周王承祐立つ是を隱帝と云ふ帝の時に至て李守貞は河中に據り王景崇は鳳翔に據り趙

隱帝立つ



三叛の連兵

思綰は長安に據り共に兵を擧げて反す帝樞密使兼侍中郭威を以て西面の招諭安撫使となし三叛を討たしむ時に孟氏蜀に據りて國を成し李氏吳に代りて南唐の國を立て又閩を滅して江南の地を有したりしが各兵を出して三叛の應援をなす既にして趙思綰は降りて殺され守貞は城陥りて焚死し王景崇も亦力盡きて自殺し三叛全く平きたり  
初め樞密使、右僕射、同平章事楊邠は機政を總べ侍衛親軍都指揮使、兼中書令史弘肇は宿衛を典り三司使、同平章事王章は財賦を掌り郭威は征伐を掌り各心力を盡して帝を扶けたれと楊邠は武事を知らず弘肇は文事を解せず章は文武の事を知らずして單に理財の事を解するのみなりしかは皆其性質の異なるを以て相和せざりき帝三叛の平きしより頗驕恣に陥り小人を信じ郭威を出して鄴都の留守天平の節度使とあし遂に讒を信じて邠、弘肇、章を殺し又密詔を送りて郭威を殺さしめむとす威依て大軍を率ゐて大梁に赴きて自ら訴へむとす帝兵を出して其軍を拒きしが或ハ叛きて敵に降り或ハ戰

宰相の軋轢

郭威漢を篡す

ひすして還り官軍皆利を失ふ帝逃れて民家に入りしが遂に亂兵に弑せられしり時に帝の叔父劉崇河東の節度使となりて晋陽に在り兵を率ゐて入援せむとしたりしが郭威の太后に白して崇の子武寧の節度使劉贊を迎立すと聞きて止またり贊未だ至らざるに威契丹の入寇するを聞きて兵を將ゐて澶州に至りしが將士大に諫きて威を擁して南還す威遂に帝位に即く是を周の太祖皇帝と云ふ漢凡二世四年にして亡ひぬ

第三節 周の世宗の治世

太祖既に自立したりしかハ劉崇も帝位に即きて國を北漢と稱し并汾忻代等の十二州(并汾忻代鳳憲隆蔚泌遼麟石)を領し援を契丹に求めて屢邊に寇す後契丹主述律其將を遣ひ奚契丹の兵五萬を將ゐて北漢と共に來りて晋州に寇す帝將を遣はして契丹を走らし北漢の兵を破れり是より暫く侵寇を止めたりき帝在位三年にして崩し太子榮立つ是を世宗皇帝と云ふ(帝ハ太祖の妻兄柴守禮の子にして太祖の養子となれり)崇太祖の崩したるを聞きて大に喜びまた周を攻めむとす兵を契丹に請ふ契丹

世宗の即位



高平の戦

の將楊衰萬騎を率ゐて來り援く崇自ら三萬人を督して南に潞州に逼り進みて高平の南に陣す帝曰く崇我が大喪を幸とし且朕の年少なるを輕して必自ら來らむ朕も亦自ら往かむと遂に兵を率ゐて大梁を發し北漢と高平の南に戦ひて大に其軍を破りしかの崇逃れて晋陽に還れり(三)是の役に宿衛の將趙匡胤最戦功あり依て殿前都虞侯となす是れ匡胤の名を知られし始なり帝將を遣ひして北征し兵を晋陽城下に耀さしめむとす時に北漢の州縣來り附く者ありしかの帝勢に乗じて兼併せむとする志あり遂に汾遼の諸州を下す北漢の諸將來り降る者多し帝自ら晋陽に至りて城を攻めたりしが抜く能はず會大雨にて士卒多く病みしかの遂に師を班せり帝又王景等を將として後蜀を攻めて其將李廷珪を撃破す蜀主使を北漢と南唐とに遣ひして俱に兵を出して周を制せむと請ふ二國未だ兵を出さざるに王景等既に蜀兵を破りて秦成階鳳の四州を取りしかの其威西方に振へり帝銳意政をなし慨然として天下を統一する志あり時に比部郎中王朴策を獻して先づ南唐を取るべしと言

後蜀を伐

南唐を伐

ふ帝依て兵を南唐に用ひむとす(朴謀ありて能く斷す遂に左諫議大夫に遷り開封府に知事なり後樞密使に進みたり)時に南唐王李璟小人を任用し國政漸く亂れたり又使を契丹及び北漢に遣ひて共に中國を謀らむとす帝李穀等を遣ひして壽州を攻めしめ尋て親ら兵を將ゐて南下し大に唐兵を破りしかの唐の將皇甫暉姚鳳等退きて清流關を保す帝又壽州を圍み趙匡胤をして清流關を攻めしめ遂に暉鳳を擒にして滁州を下す別將又楊州を下す唐主和を請ひしむ許さず既にして帝壽州の抜けざるを以て兵を還し李重進をして之を圍ましむ城中使を契丹に遣ひして援を請ひたりしが契丹兵を出さず城中食盡きて困むる日に甚し李重進唐の援兵を破り城を圍むと益急なり帝又大梁を發して城下に至りしに城遂に下りしかの又師を班せり既にして帝又兵を出して泗濠の諸州を下し兵を江上に耀す唐主依て使を遣ひして和を求め江南の地を獻し歲に貢物を輸し帝號を去りて國主と號す且周の正朔を奉せり帝又北鄙の地を復せむとし契丹を伐ちて莫瀛易の諸州を取り悉く瓦橋關以南の地を平け進みて幽州に赴かむとし

契丹を伐



世宗の死

趙匡胤立つ

たりしが疾會に罹りしを以て成を置きて還り大梁に至て崩しぬ在位六年なり是に於て其子梁王宗訓立つ是を恭皇帝と云ふ時に趙匡胤殿前都點檢たりしが更に歸徳の節度使となれり會契丹入寇したりしか匡胤命を受けて出て拒かむとし兵を將ゐて陳橋驛河南省開封府祥符縣に至りし時軍士又大に譟き匡胤を擁して南還し帝たらむを請ふ帝遂に位を匡胤に譲れり是を宋の太祖皇帝と云ふ周凡三世十年にして亡びぬ五代通して八姓十三世五十四年なり

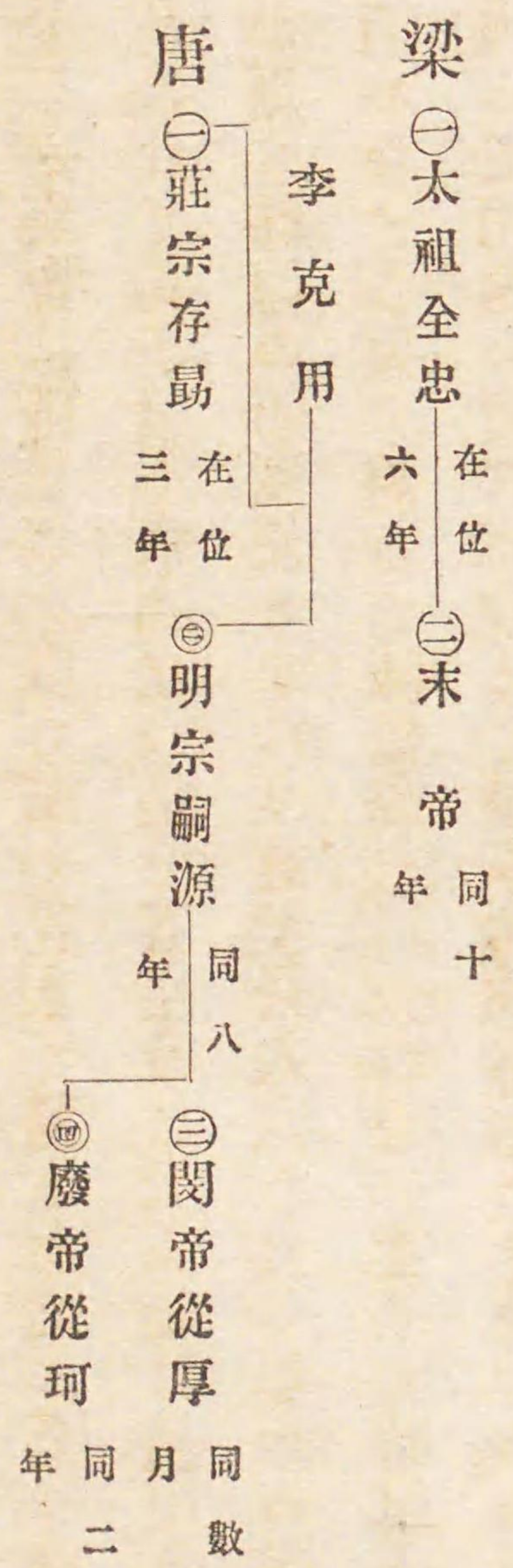
高平の戰

周軍は李重進白重賛左軍を將ゐて西に居り樊愛能何徽右軍を將ゐて東に居り向訓史彥超精騎を將ゐて中に居り張永徳禁兵を將ゐて帝を護す漢軍ハ劉崇自ら中軍を將ゐて先鋒先つ漢を伐ちしに漢兵其勢に壓せられて少く退く世宗依て諸軍を督して急に進みしが後軍未だ繼ぎ至らざりしかハ衆皆危み懼れたり劉崇周軍の少を侮り軍を麾きて先つ進む相戰ふと未だ半ならざるに周の右軍潰れ樊愛能何徽先つ遁れ歩兵千餘甲を解きて降り世宗軍勢の危きを見て自ら親兵を帥る矢石を冒して戰を督す宿衛の將趙匡胤曰く主上の危きこと此の如し吾屬何

ろ死を致さざるべけむと又張永徳に謂て曰く賊氣驕れり破るこ  
と難からず公西に出て、左翼となれ我右翼とありて之を撃たむ  
と永徳其言に従ふ是に於て各二千人を將ゐて進み戰ひたり匡胤  
身士卒に先たちて其鋒を犯す士卒皆死力を盡して戰ふ契丹の兵  
周兵の強きを見て敢て漢兵を援けず漢兵大に破れて走れり世宗  
樊愛能何徽等七十餘人を收めて責めて曰く汝輩戰ふこと能はざ  
るにあらす正に朕を奇貨として劉崇に賣與せむとするのみと悉  
之を斬れり是より驕將惰卒も懼を抱きて皆その英武に服したり  
といふ

五代の帝系

符號は養子の





石敬瑁 高祖の兄

晋 高祖敬瑁 在位七年 同五年 出帝重貴

漢 高祖知遠 在位一年 同三年 隱帝承祐

周 太祖威 在位三年 同六年 世宗榮 同一年 恭帝宗訓

### 十國沿革表

五代の際海内分裂して豪傑の士各地に割據せし者少からず吳、前蜀、楚、閩、吳越、南漢及び南唐、後蜀、荆南、北漢の十國あり是を五代の十國といふ今左に表を掲げて其興亡の一斑を示すべし

國名

始祖

沿革事略

吳

楊行密

楊行密は合肥の人あり唐の昭宗の時に淮南の節度使となり後吳王に封せられ悉淮南江東の地を有せり行密卒して子渥嗣く渥不道あり徐温等屢諫むれともきかず温遂に渥を弑し渥の弟隆演を立て専ら

前蜀

王建

軍府の事を決す温の養子知誥も亦知軍事たり隆演卒して弟溥嗣く溥遂に位を知誥に譲れり吳凡四十九年にして亡びぬ

楚

馬殷

王建は許州の人あり唐の昭宗の時西川の節度使となりて蜀の地を領す後蜀王に封せられ遂に帝と稱せり建卒して子宗衍立つ宗衍奢侈を好みて國事を憂へす後唐の兵來り伐つに及びて拒き戰ふ能はず遂に出て降り前蜀凡二世二十三年にして亡びぬ  
馬殷は許州の人あり唐の時武安の節度使劉建鋒の指揮たりしか營兵建鋒を殺して殷を帥となす殷後梁の時楚王に封せられて遂に潭湘道桂象柳等の諸州を併有せり殷卒して子希聲嗣く希聲卒して希範希廣相尋きて王となれり希廣の兄希萼希廣を殺して自立す徐威又希萼を囚へて其子希崇を立てたりしが遂に南唐に併せられたり楚凡六世五十五年



閩	南唐	吳越
王審知	南唐	錢鏐
<p>王審知は光州の人あり唐の昭宗の時に威武の節度使となり後梁の太祖の時に閩王に封せられたり審知卒して子延翰立つ既にして其弟延鈞延翰を弑して自立したりしが又遂に亂兵に弑せられたり是に於て其子昶立つ既にして軍使朱文進昶を弑して延曦を立つ尋て文進又延曦を弑して自立す閩人文進を殺して延曦の弟延政を立て、國を殷と號す後遂に南唐に併せられたり閩凡六世四十九年にして亡びぬ</p>	<p>錢鏐は杭州の人あり唐の昭宗の時鎮海の節度使となり遂に兩浙の地を有す後梁の太祖の時吳越王に封せられしかど敢て梁に従はず鏐卒して子元瓘孫弘佐及び弘佐の弟弘侗相つきて立ちたり既にして弘侗廢せられて弘俶立つ宋の曹彬の南唐を伐ちし</p>	<p>して亡びぬ</p>

南漢	南唐	南唐
劉隱	李昇	李昇
<p>劉隱は上蔡の人あり唐の昭宗の時に清海の節度使となり南海の地を有せり隱卒して弟巖立つ巖遂に帝と稱す巖卒して子玢立つ玢驕奢を好みて心を國事に留めず弟晟玢を弑して自立す晟卒して子鋹立つ鋹殘酷にして大に人心を失ふ宋の潘美の來り伐つに及びて遂に出て降れり南漢凡五世七十年にして亡びぬ</p>	<p>李昇は徐州の人あり徐温の養子となりて徐知誥と稱す吳の禪を受くるに及びて舊姓名に復す昇心を政に留め人民其堵に安す昇卒して子璟嗣く周の世宗の時江北の地を周に與へ又帝號を去れり璟卒して子煜立つ宋の曹彬の來り征するに及びて煜遂に</p>	<p>時に兵を出して宋軍を援く南唐亡ひて宋に入朝す太宗の時悉其地を獻して淮海王に封せられたり吳越凡七世八十四年にして亡びぬ</p>



後蜀	孟知祥	<p>孟知祥は邢州の人なり後唐の莊宗の時に西川の節度使となり又蜀王に封せられしが遂に帝と稱せり知祥卒して子昶立つ昶奢侈を好みて政を修めず宋の王全斌の來り伐つに及びて昶遂に表を奉して降り後蜀凡二世四十一年にして亡びぬ</p>
荆南	高季興	<p>高季興は陝州の人なり後梁の太祖の時に荆南の節度使となり後唐の太祖の時南平王に封せられたり季興梁震孫光憲を用ひしかは境内能く治れり季興卒して子重誨立つ重誨卒して保融保勗繼仲相つきて王となりしが繼仲の時に宋に降り荆南凡五世五十八年にして亡びぬ</p>

官制

北漢 劉崇

び遂に憂憤して死し其子承鈞立つ承鈞郭無爲を相となす承鈞卒して子繼恩立つ無爲繼恩を弑して其弟繼元を立つ宋の兵來り伐つに及びて繼元出て降り北漢凡四世三十一年にして亡びぬ

第四章 隋唐五代の開化

第一節 制度

(官制) 隋の時に新に官制を定めたりしが唐の大抵其制に由りて多小の損益をなしたるは過ぎず故に三省の長官たる尙書令中書令侍中の國政に參與し宰相の實權を握れり然れども李世勣が太子詹事を以て同中書門下三品となりしより宰相たる者皆同中書門下三品の稱を加ふることとなり又黃門侍郎郭待舉等の同中書門下平章事となりてより同平章事の遂に宰相の職となりり又三公(司徒司馬司空)三師(太師太保太傅)の官あれと唯陰陽を變理せと云ふに止まりて實際の政務に與らる三省の外に又三省あり併せて六省と稱す一臺九寺五



監等と諸政を掌り其職掌左の如し

長品職 掌

長品職 掌

尙書省令	中書省令	門下省中侍	秘書省監	殿中省監	內侍省內侍	國子監祭酒	少府監監	將作監大匠	軍器監監	都水監使者
正二品	正三品	正三品	從三品	從三品	從四品	從三品	正三品	從三品	正四品	從五品
百官を總領し端揆を儀刑する事を掌る	侍從獻替及び勅勅冊命の事を掌る	帝命を出納し禮儀を贊相する事を掌る	經籍圖書の事を掌る	衣食車乘の事を掌る	宮内に供奉し制令を宣傳する事を掌る	學校教育の事を掌る	百工巧伎の事を掌る	土木工匠の事を掌る	弓弩甲鏡等の事を掌る	川澤津梁等の事を掌る

御史臺	太常寺	光祿寺	衛尉寺	宗正寺	太僕寺	大理寺	鴻臚寺	司農寺	大府府
大品	正三品	從三品	從三品	從三品	從三品	從三品	從三品	從三品	從三品
刑憲典章を明にし彈劾糾察を爲する事を掌る	禮樂郊廟社稷祭祀等の事を掌る	酒醴膳羞の事を掌る	武器車馬の事を掌る	皇族及び外戚の屬籍の事を掌る	廐牧與馬の事を掌る	析獄詳刑の事を掌る	賓客凶儀の事を掌る	倉儲委積の事を掌る	財貨藏市の事を掌る

尙書省	戶部	禮部	兵部	刑部	工部
尙書	尙書	尙書	尙書	尙書	尙書
正三品	正三品	正三品	正三品	正三品	正三品
官吏の選叙勳封考課の事を掌る	戶口班田の事を掌る	禮儀祠祭燕饗貢舉の事を掌る	軍衛及び武選の事を掌る	律令刑法及び徒隸關禁の事を掌る	百工屯田山澤の事を掌る

又武官の諸衛の將軍ありて兵衛の事を掌り東宮の官屬の詹事府、左右春坊、家令寺、率更寺、僕寺及び諸率府等ありて東宮に關することを掌り以上の諸官を京官と稱す

外官の都督府都護府あり都督の諸州の軍政を掌り都護の諸蕃を撫む外寇を拒くを掌りしが後遂に節度使等の官の起るに至れり府の牧尹あり州の刺史あり縣の令ありて地方の政令を掌り

唐の官名の時代よりて異同なきはあらざと雖も(例へば則天武后の時に尙書省を中臺と稱し中書省を鳳閣と稱し門下省を鸞臺と稱したる如き是なり)大體に就きての著しき變革なし唯同平章事及び節度使の官の如き唐の中世より起れる者よりて前代になき所なり五代の大畧唐の制より



(兵制) 唐の兵制の前後凡三變せり府兵を初とし曠騎を中とし藩鎮の兵を終となす

府兵の制の北周より起り隋より備はりしが唐に至りても亦其法によれり太宗の時

(關内、河東、河南、河北、山西、淮南、江南、劍南、嶺南)

に折衝府六百三十四を設け中二百六

十一を關内道に置きたり是れ内を重くして外を制せむか爲めなるべし是等

の諸府の皆京師なる諸衛府

(左右衛府、左右驍騎府、左右武衛、左右威衛、左右領軍衛、左右候衛、左右監門府、左右府)

に隸せしめて

番上する者となす

凡府の區別の三等あり千二百人を上府となし千人を中府となし八百人を下

府となす府の職員は折衝都尉、左右果毅都尉、長史、兵曹、別將、校尉等あり又

隊の組織は十人を火となし五十人を隊となし二百人を團となす凡て民年二

十にして兵となり六十にして免し騎射を能くする者を騎兵となし其餘を歩

兵となす歳の終りに折衝都尉自ら其府兵を率ゐて戰を習ひし平時は耕作を

なし番上する者の宿衛をなす若四方に事ある時の符契の下るを待ちて兵を

出す其制頗備のれりと云ふべし然るに高宗の後は其制漸く破れて番上する者も往往其時を失し玄宗の時に至りては衛士耗散して宿衛に給する能はざるに至れり是より於て宰相張説の言により京畿の府兵及び白丁十二萬人を募りて諸衛に隸せしめたり是を曠騎と云ふ其後曠騎の法も漸く變廢し且諸州の府兵も益壞頽したりしかる遂に市人を募りて宿衛に充てたり然るに安祿山の反に及びて皆敗散し遂に天下の大亂となれり後亂平さし藩鎮の勢漸く強く大兵を擁して朝廷の命令を奉せむ各地に割據して隱然諸侯の觀あり是より府兵曠騎の法は其跡を絶ちたり是を唐の兵制の三變となす五代に至りては別に記すべき者なし

(田制税法)

班田の制は南北朝の時にも行はれたりしが唐に至りて最備のれり凡

男子の年十八以上の者には田百畝を給し中八十畝を口分田となし二十畝を

永業田とす但老男篤疾廢疾の者には四十畝を給し寡妻妾は三十畝を給す

るなり田を收授するには毎年十月より十二月の間に於ては狹郷の田を授く



ると寛郷の半に減す（田多き所を寛郷と稱し、田少き所を狭郷と稱す）田地を賣買するの禁はたれど若他郷に移住し或は貧困にして葬むる能はざる時に永業田を賣るを得べく又狭郷より寛郷に移る時の口分田を賣るを得べし然れども既に賣りたる者には更に田を授けざるなり

賦税の目に三種ありて租庸調と云ふ租は百畝の田より粟二石を出し庸は歳に二十日役に就く（閏年なれば二日を加ふ若役に就くとす）調は郷土の産する所に從ひて絹綾緇麻布の類を出すなり（絹綾緇なれば各長二丈、麻布なれば二丈、四尺なり、蠶郷にあらざれば銀を出す）若水旱の災霜蝗の害にて田の收穫十分の四を耗したる時の租を免し十分の六を耗したる時の租調を免し十分の七を耗したる時の租庸調を免す又桑麻を耗したる時の調を免するなり

右は唐の初に定めたる者にて三歳毎に郷帳を造り一歳毎に計帳を造り來りしが玄宗の時に至りては是等の帳簿を造るに時を以てせず班田の法も亦隨ひて敗れたり又安史の亂より賦歛定らず各意に隨ひて科目を増したりしか

法制

の人民大に困弊して浮戸となり土著する者甚稀なるに至れり是れ實に税法の改革を要する時なり依て徳宗の時に至りて楊炎の議によりて兩税の法を設けたり蓋兩税の法の夏秋に税を徴し（夏輸ハ六月を過ぐるを得す、秋輸ハ十一月を過ぐるを得す）毎歳州縣の費と其上供の數とを計りて人に賦し戸の主客を問はざ見居を以て簿となし人の中丁を論せず貧富を以て差とあすなり此法の班田の制既に破れたる後に於ては最宜しきに適はざる者と云ふべし故に後世賦税を課するに大抵此法によれり

（法制） 隋の文帝の時に刑律を定めて十二篇となし煬帝の時十八篇に増したりしが唐に至りて又十二篇（名例、衛禁、職制、戶婚、廩庫、擅興、賊盜、闘訟、詐僞、雜律、捕亡、斷獄）となれり刑名の笞杖徒流死の五種に分れたると前代と大差なしと雖も死刑の絞斬に限れるか如きは蓋亦一の進歩なるべし

唐の律に齊律に倣ひて十惡の目を設けたり一に謀反、二に謀大逆、三に謀叛、四に惡逆、五に不道、六に大不敬、七に不孝、八に不睦、九に不義、十に内亂是



なり此十惡を犯したる者の八議に當る者と雖も其罪を宥さず蓋八議との議親、議故、議賢、議能、議功、議貴、議勤、議賓にて罪を犯すも評議に付して宥恕さるべき資格ある者を云ふ

唐の刑名

笞刑	杖刑	徒刑	流刑	死刑
五十	六十	一年	二千里	絞
二十	七十	一年半	三千里	斬
三十	八十	二年	二千五百里	
四十	九十			

唐律によれり卑屬親の尊族親に對する罪と奴婢の主人に對する罪との甚重しと雖も尊屬親の卑屬親に對する罪と主人の奴婢に對する罪との甚輕し亦當時社會の習俗を見るに足るべし彼の老者(九十以上)幼者(七歳以下)の如きハ死罪を犯すも其罪を論せず又再犯は加重し自首ハ減輕し二罪俱に發する時は一の重き罪に從ひて處斷し又死刑は市に於て執行するを常となすと雖も五品以上の者なれり自宅にて自盡するを許すか如きハ古來慣行の法に由れる者なるべし

犯人ハ其罪の發せし所の州縣にて推斷するを例とす京師に在てハ杖刑以下

選舉

ハ當司の推斷に委し徒刑以上の大理寺ハ送致す大獄を鞠する時の刑部尙書御史中丞大理卿と共に參同するなり

(選舉) 隋の煬帝の時ハ始めて進士の科を設け詩賦を以て士を取りしが後世進士の選舉の主なる者となれり唐ハ至りて士を取るの法益密に赴きて大畧三種あり生徒、貢舉、制舉是なり

京師の諸學館(國子學、大學、四門學、律學、算學、弘文館、崇文館)と州縣の諸學校より諸生の成業したる者を

尙書省に送りて試を受けしむ是を生徒と云ふ學館より出てさる者の先づ州縣の試を受け及第すれり京師に來り尙書省にて試を受く是を貢舉と云ふ此の二者の外に天下の非常の士を待たむか爲に天子の自ら舉くることあり是を制舉と云ふ

凡生徒及び貢舉には季才進士明經等の目あり其試験の課目の各異なれり秀才ハ方畧策五道を試み進士の雜文二篇と時務策五道とを試み明經ハ每經十帖と經策十條とを試む此の外に身言書判の四者ありて身の體貌豐偉なるを



要言は言詞辨正なるを要し書は楷法適美なるを要し判の文理優長なるを要すかくて進士を經史に暗く明經の理義に暗さに至りしかの玄宗の時に進士の文策の外に大經十帖を試み明經の帖經の外に大義十條を訪ひ時務策を試むるに至れり蓋進士明經の科の唐の世に最も盛に行はれたる者なり其他明法明字明算道舉開元禮孝廉の諸科及び史科三傳科等の設けありしも盛に行はれさりき

第二節 學術

隋より唐に至りて學校の制頗備はれり唐の京師に國子學三品以上の子孫を主とす定員三百人なり大學四品以上の子孫を主とす定員五百人なり四門學八品七品の子孫及び庶人の俊秀を主とす定員千二百人なり律學八品以下の子弟及び庶人の其事に通せる者を主とす定員五十人なり書學同上定員は三十人なり算學同上定員は三十人なりありて國子監に屬し又弘文館崇文館共に宗室功臣の子孫の學ふ所なりありて門下省に屬す其他各府州縣にも學校を置きたりしかの選舉の法と相待つて當時の學術に多少の影響を與へたり然れども學校にての經書を大經禮記左傳中經詩經周禮儀禮小經書經易經公羊傳穀梁傳に分ちて學生も

學校の沿革

課する者多かりしかの經學に關係を有せるに過ぎず唯選舉の反て他の學術にも影響を與へたるか如く安史の亂より後の學校漸く衰へてまた初の如く盛ならさりき

經學

(經學) 唐の經學の註疏の學なり太宗の時に孔穎達等に命じて五經正義を撰はしめ易經の王弼の註に書經の孔安國の傳に詩經の毛萇の傳鄭玄の箋に禮記の鄭玄の註に左傳の杜預の註に疏を作れり又賈公彦の周禮と儀禮とに徐彦の公羊傳に楊士勛は穀梁傳に疏を作れりかく註疏の流行するに至りしかの漢儒の註の漸く解し難さに至りしかにありと雖も實は太宗の正義を撰はしめて經說を一にせむと計りしかに因らずむはあらず故に唐の世に出でたる經學者少なからせと雖も其經說の大抵正義の範圍を出つる能はざる經學の進歩の頗遅緩かりしか如く然れども一二の卓逸の士ありて正義の範圍を出でたる者なきにあらざ彼の李鼎祚の周易に於ける(鼎祚の周易集解の著あり)啖助陸淳の春秋に於ける(陸淳の春秋集傳纂例及び辨疑等の著あり)か如き即ち是なり



(史學) 史學も亦別に進歩をなしたるを見ざる然れども太宗の諸臣に命じ前代の歴史を編纂せしめたるより正史として世に顯れたる者甚多し姚思廉の梁書(五十卷)及ひ陳書(三十六卷)を撰し李百薬の北齊書(五十卷)を撰し令狐德棻の岑文本崔仁師陳叔達と周書(五十卷)を撰し又魏徵等の隋書(八十卷)を撰し房喬等の晋書(百十卷)を撰す晋書の實行を畧して浮華を獎め正典を忽にして小説を取れりとの譏あり隋書の顔師古孔款達傳記を撰し于志寧、李淳風、韋安仁、李延壽、令狐棻諸志を撰したるか故に最完備せりと稱す李延壽又宋梁齊陳の諸史と後魏齊周の諸史との煩蕪を憂へて南史(八十卷)と北史(百卷)とを撰す南史を北史に比せれば稍劣れりかく歴史を編纂したる者甚多しと雖も史家の識見を具へたるは劉知幾を以て稱首となす知幾の中宗玄宗に歷仕し史通を著せり中に斬新の説、奇創の見少なからず又顔師古の如きは最も漢書に精く注解をなせりと雖も史家として、知幾に及はず又唐の世より歴代の天子の實錄ありて韓愈の如きも順宗實錄を著しりき

(文學) 文學の經學と史學とに反し大に發達したり蓋魏晋の後、駢体の文専ら行はれて唯字句の彫琢を主とし詩も亦五言の体多く行はれて七言の大篇少し是れ實に唐の文學の革新をなすに至りたる所以なり且選舉の法の如きも亦文學の發達に與りて力あるべし

唐初の文學の尙六朝の風を脱せず故に楊炯、王勃(字は子安)、駱賓王、盧照隣(字は昇之)の駢体の文に巧なるを以て四傑の稱あり沈佺期(字は雲卿)、宋之問(字は延清)の律詩に能きを以て知られたり然れも皆唐の文學の精華と稱すべき者にあらず玄宗の世に帝頗經術を好み且張說、蘇頌の徒雅正の文を造りしかの文學の氣運漸く開發し李白(字は太白)、杜甫(字は子美)の如き詩人の出るに至れり⊕白の詩の高妙にして飄逸、甫の詩の悲壯にして沈鬱なり白の夢游天姥吟及ひ甫の北征の詩の如き其一斑を窺ふに足るべし時に王維、韋應物、岑參、高適の徒ありて亦各詩を能くしたりしかの詩歌の勢頗盛しして十分の發達をなせり然れども文章の尙六朝の風を免かれず故に德宗の時なる陸贄の奏議の如き摯實



にして観る可しと雖も多くの駢体なりき然れども徳宗の時には韓愈字は退之と柳宗元字は子厚との出つるあり舊來行へれたる文章の弊を除かむを務めたり愈平生駢体の文を喜はず勉めて古文を唱導し世人の嗤笑を受けたりしが其友人に柳宗元あり門下に李翱字は習之の徒ありて共に力を盡し、かの遂に古文を回復するに至れり愈の文の渾厚にして宗元の文の雅健なり二人亦詩を能くす愈の詩の艱奥にして宗元の詩の温雅なり(○)又同時に李賀字は長吉あり險怪の詩を作りて別に家をなす稍後れて元稹字は微之白居易字は樂天あり平易の詞を以て稱せられたり稹の連昌宮辭及び居易の長恨歌琵琶行の如き人口に膾炙す二人互に韻に次たる詩を作りしかの次韻と云ふ是より始まれり又尋て杜牧字は牧之李商隱字は義山温庭筠あり牧の詩の豪放にして風骨あり商隱と庭筠との詩の縝麗に近し當時温李と並稱す最後に韓偓字は致光あり香奩体を以て稱せられたりかく唐の世の文學の勢甚盛なりと雖も五代に及びての大に衰頽し別に記すべきなきに至れり

○李白

幼にして詩書に通し又豪放にして酒を嗜み玄宗の時長安に至りしに賀知章其文を見て嘆して曰く子は謫仙人ありと遂に玄宗に薦めたりしが用らるゝに至らず依て去て四方に飄遊し詩酒を以て樂となす肅宗の時罪を得て夜郎に流されたりしが赦に會ひて歸り既にして又事によりて獄に下れり幾もあくして釋されたりしが遂に病を得て歿しぬ時に年六十なり

杜甫

進士に擧げられて第せず三大禮の賦を玄宗に獻す玄宗其才を奇とあし制を集賢院に待たしむ既にして安祿山反し玄宗蜀に出奔す甫も亦三川に走りしが途にて賊に捕はれたり甫逃れて靈武に至り肅宗に仕へて右拾遺となり又華州の司戸參軍となり尋て官を棄て、劔南に流寓し節度使嚴武の參謀とありしが武の卒するに及び去て江南各地に漫遊し頗苦辛を嘗め遂に洞庭湖上に於て客死しぬ時に年五十九なり

○韓愈

幼より讀書を好み日に數千百言を記す長するに及びて六經とあり監察御史に遷りしが上旨に忤ひて陽山の令に貶せられたり憲宗の時又國子博士とあり累年昇進して刑部侍郎とありしが佛骨を迎ふるを諫めて潮州の刺史に貶せられたり穆宗の時兵部侍郎となり又吏部侍郎とあり遂に疾を以て歿しぬ時に年五十七



あり

柳宗元 幼より精敏にして文章を能くす徳宗の時進士に擧げられ  
校書郎より藍田の尉となり遂に監察御史裏行となれり順  
宗の時王叔文に善きを以て禮部員外郎とありしが憲宗の立つに  
及びて叔文等を斥け宗元を永州司馬に貶したり宗元永州に在る  
と十餘年、刻苦して文章を作爲す皆觀るべき者なり韓愈其文を評  
して雄深雅健司馬遷に似たりといふ後柳州の刺史に徙りしが幾  
もあくして歿しぬ時に年四十七あり

第三節 宗教

隋唐より五代の際に於ける宗教のありさまは前代に比すれば多少の差あり  
蓋隋唐の世には彼の佛敎道教の外に景教（即耶蘇教）回教摩尼教等の傳來したるを  
以てなり然れども回教摩尼教は當時未だ盛ならざりしか故に先づ佛敎道教  
及び景教の之を叙すべし

佛  
教

（佛敎） 佛敎は南北朝の時の餘勢を受けて隋唐に至りても亦隆盛を極めたり唐の高祖の戒を守らざる僧尼多きを以て大に沙汰をなしたりしが太宗の

時に其命を停めて更に私度を禁じ應に度すべき者の數を定めたり蓋亦佛敎  
の隆盛なりし反動なるべし後太宗の時に僧の立契出て、佛敎に一大勢力  
を興へたり立契印度に遊ひて戒賢律師の門に入り大に佛典を精窮し十餘年  
を経て還れり當時齋し還りし經論は六百五十部ありしが其弟子道宣等と共に  
翻譯に従事し前後七十四部千三百二十八卷を譯す其夥しきを鳩摩羅什の  
上にありと謂ふべし立契大に太宗及び高宗に重せられたりしかは佛敎の  
勢自ら盛なりき其後高宗より則天武后の時に至る間に、義淨三藏の印度に  
赴きて經を求めたる事あり又印度の僧日照及び菩提流志等の來れるあり  
殊に武后の好みて寺を作り僧を度して人民を病ましめたるは著しき事とす  
立宗の時に至りて印度の僧善無畏三藏、金剛智三藏、不空三藏相つきて來れ  
り是を開元の三大士となす又惠日三藏は印度に遊ひて還れり、且顔真卿王  
維の徒も佛敎を信奉したりしかは其勢頗盛かり是の時に方りて三歲毎に僧  
尼の籍を作り祠部の官より度牒を給したり是を度牒を給せる始めとなす



爾後佛教益盛にして文宗の時に寺四萬餘僧尼七十餘萬人ありしと云ふ武宗の時に至りて頗道教を信し道士趙歸真をして僧の智玄と論難せしめたるにありしが道教勝たむ武宗怒りて佛教を抑し寺院四萬を破り僧尼を還俗せしめたるに二十七萬人に及びり後世後魏の太武帝北周の武帝及び唐の武宗の佛教を抑したるを稱して三武の災と云ふ宣宗の時また佛教の禁を解きたりしが唐末の争亂に際して其勢振はす尋て五代の騷擾に接し加ふるに周の世宗私に僧尼を度するを禁し父母に侍養者なき時は出家を許さざりしかは佛教の勢大に衰へたり當時各宗より三論宗、律宗、華嚴宗、禪宗、法相宗、天台宗、眞言宗、淨土宗等ありき①

道教

(道教) 道教の唐の世に至りて頗勢力を有せり蓋唐の姓の老子と同一きを以て遂に老子を其祖先とし道教を尙びたるか故なるべし高祖の時より老子の廟を立て、崇敬の意を致し高宗の時より亳州に幸して老子の廟を謁し太上玄元皇帝といへる尊號を奉り且王公以下も命じて道德經を習はしめたり

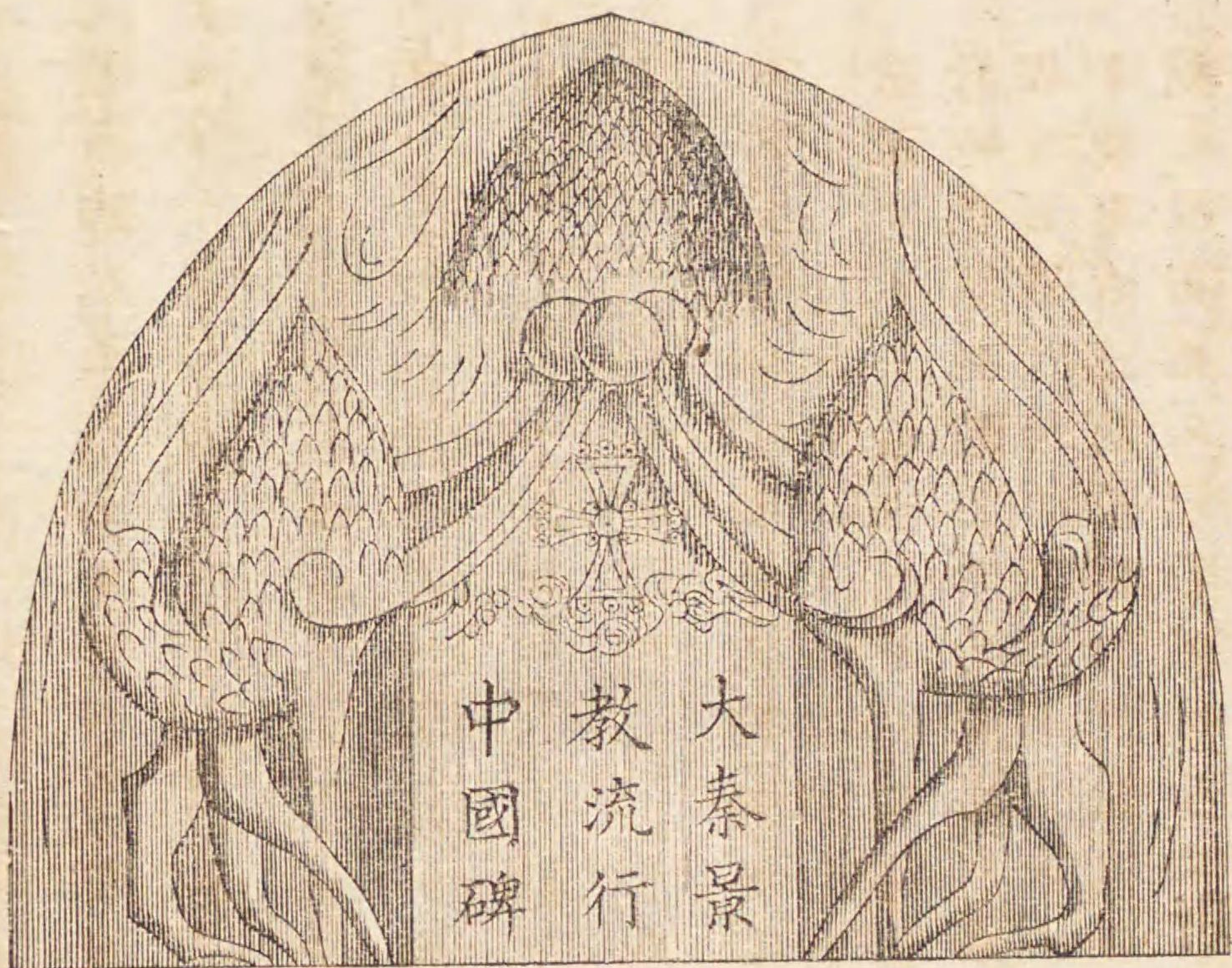
かく道教を尊ひたりしもの其勢甚盛にして賦役を免かれむとする者の多く道士の中より入るに至れり中宗の時より諸州に觀一所を作らしめて皆大唐中興と名つけたり又方士鄭普思を秘書監となり葉靜能を國子祭酒とあり且睿宗の西城隆昌の二公主を女寇となし至れり玄宗の時より亦道教を尙びて五岳より眞君の祠廟を置き兩京及び諸州より玄宗の廟を設け道法よりて祭を致す且士民の家は皆道德經一本を藏すべきことと玄宗自ら注解を作れり或は崇玄館に玄學博士を置きて教授し或は諸州に崇玄學生を置きて貢舉に應せしめたり(是を道舉と云ふ)時に士民は争ひて神異の事を奏し宰相も宅を捨て、觀となす者ありしが佛教の勢も亦甚盛なりしかは互に軋轢をなしたり然るに武宗の時より大に佛教を斥けて道教を揚げしより俄に勢力を有するに至りしが後また舊狀に復したりき

景教

(景教) 景教の支那に入りたるは唐の初にあり蓋波斯には當時既に景教「ナストリアン」派の行はれ居りしが其僧阿羅本と云ふ者經典を持して長安に



來れり時に太宗位にあり阿羅本を禁中に留めて經典の翻譯に従事せしめ且  
 有司に命じて兩京諸州に波斯寺を作  
 り景僧二十一人を度したり高宗更に  
 寺院を諸州に置きて阿羅本を鎮國大  
 法主となす是より景教漸く行はるゝ  
 に至れり玄宗も亦頗獎勵をなす寧國  
 等の五王をして波斯寺に臨みて壇場  
 を立てしめ又景僧估和等十七人を宮  
 中に召し入れて功德を修めしめたり  
 尋て波斯寺を改めて大秦寺と名く盖  
 大秦は羅馬にして景教の本は羅馬に  
 あるか故なり肅宗の時更に靈武等の  
 五郡に於て寺院を設け代宗も亦相つ



て崇教を致し郭子儀の如きも景寺を修めたりかく景教の勢頗盛なりしかは  
 德宗の時に至りて大秦寺の僧景淨等相圖りて景行流行の碑を立てたり然る  
 に武宗の時に佛寺と共に景寺を廢し其僧を還俗せしめたりしかは其勢遂に  
 衰頽し碑は地中に没せらるゝに至れり後數百年を経て明の末世に至り碑は  
 再掘り出されたりしかは初めて當時景教の盛なりしを知るを得たりと云ふ

（碑文ハ天道  
 湖原にあり）

（三）三論宗

中論、百論、十二門論によりて宗を立つるが故に三論宗と稱  
 す印度にてハ文殊を高祖とあし、馬鳴を次祖となし、龍樹を  
 三祖とあす支那にてハ鳩摩羅什の三論を譯したるを初めとす羅  
 什の門人道濟三論を講して曇摩羅什の三論を譯したるを初めとす羅  
 經て吉藏に至て此宗を大成す、吉藏ハ隋の嘉祥寺の僧あり、吉藏よ  
 り前を古三論と稱し、又北地の三論と稱す、吉藏より後を新三論と  
 稱し、又南地の三論と稱す、唐に及ひてハ惠遠、智拔、惠喻、法敏の諸德  
 出て、其勢益盛ありき、此宗の我邦に傳はりたるハ推古天皇の時  
 に吉藏の弟子高麗の僧惠灌の來朝したる時にありと云ふ、



(律宗)

律藏を宗とするか故に律宗と稱す、律に四種あり、十誦律、四分律、僧祇律、五部律是なり、今の律宗の主とする所の四分律にあり、印度にては曇無徳を以て開祖とす、魏の時に印度の僧曇柯迦羅來りて四分律を譯す、是れ支那にて律の出たる初めあり、姚秦の覺明も頗律に通し、後魏の法聰始めて四分律を講敷す、後諸徳相つきて出て各疏を作りて四分律を弘めたりと、諸部雜亂して區分明からざりしが、唐に至て智首律師五部區分鈔を作れり、後此宗遂に三分す、相部の法礪、南山の道宣、東塔の懷素是あり、就中道宣の派最盛ありき、此宗の我邦に傳りしは、孝謙帝の時に、唐の僧鑑眞の來りしにあり

(華嚴宗)

華嚴經を主となすか故にかく名けたり、印度の師承の畧す、支那に在ては隋の法順を元祖とす、法順華嚴法界觀、五教止觀を作りて、唐の智儼に傳へ、智儼の賢首に傳ふ、賢首華嚴の疏を作り大に此宗を弘めたり、賢首の没後に、其弟子惠苑師説に背きて、此宗の防碍をあたしたりしが、後百餘年を経て澄觀宗密相つきて起り、頗其勢を挽回せり、此宗の我邦に傳りたるは聖武帝の時に、唐の僧道璿の華嚴宗の章疏を齎し來りしを始めて、尋て新羅より審祥法師講來り、其宗大に興れりと云ふ、

(禪宗)

禪那を宗とするか故に禪宗と稱す、(禪那の譯し)印度に於ては摩訶迦葉を始祖とす、摩訶迦葉より二十八傳して達摩に

至る、達摩支那に來りて禪宗の開祖とされり、達摩より惠可、僧粲、道信を経て唐の弘忍に至り、始めて南北の二派に分れたり、弘忍の弟子に慧能、神秀の二人あり、神秀は北地に行化せしか、北宗と稱し、慧能は南地に行化せしか、南宗と稱す、北宗は後世分派を生ぜざりしも、南宗は七派に分れたり、慧能の門人に南岳の慧讓と、青原の行思とあり、是を南岳、青原の二派とす、後南岳の門下より臨濟、揚岐、黃龍の二派を出したり、是を南宗の七派とす、後又黃蘗の一派あるに至れり、其我邦に傳りたるは三宗あり、一を臨濟宗とす、即後鳥羽帝の時に僧の榮西宋に入りて、虚庵教禪師に就きて、臨濟の正宗を承け歸りて、建仁寺を建てたり、二を曹洞宗とす、即後堀河帝の時僧の道元宋に入りて傳受し歸りて、永平寺を建てたり、三を黃蘗宗となす、後光明帝の時に明の黃蘗山の隱元禪師來りて、萬福寺を立てたるに始まれり

(法相宗)

諸法の體相を明にする宗あるを以て法相宗と名つけり、解深密經を本經とす、唯識論を本論となす、唐の玄奘印度に入り、戒賢論師に學ひて歸り、初めて門戸を立て、唯識述記を本典となし、大に唯識の蘊奥を開きたり、時に僧圓側あり、窺基と肩を並べ、法相を講敷す、されど自己の見解を以て正宗を亂す弊ありしか



は、窺基の弟子惠詔了義燈を著はし、惠詔の弟子智周演秘を作り、窺基又別に樞要を著せり、是より其勢稍盛ありしか宋に至ては衰へたり、此宗の我邦に入りたるは孝徳天皇の白雉四年にあり、即僧の道昭唐に赴きて玄奘に就きて法相宗を學び、歸朝の後に元興寺を建てたり、後齊明帝の四年に、智通智達の二僧入唐して、玄奘及び窺基につきて學ひ、歸りて後に又此宗を弘めたり

(天台宗)

開祖智顛の天台に棲みたるによりてかく名つけたり、此宗は法華經を本經とし、智度論、涅槃經、大品經を參觀し、一心三觀の妙理を明かにするにあり、初め北齊の惠文智度論、中觀論によりて此理を悟り、南岳の惠思に授け、惠思より智顛に授く、智顛二師につきて初めて此宗を大成す、後灌頂法華天宮左溪の諸師を経て、湛然に至れり、湛然は中唐の人にて、頗著述に富めり、後八傳して智禮に至て一宗を興す、是に於て山家山外の二流に分れたり、山家は智禮の傳ふ所、山外は悟恩の傳へたる所なり、此宗の我邦に傳りたるは桓武帝の時にあり、即延曆二十三年に僧の最澄唐に赴き天台山國清寺の僧道邃に就きて、天台宗を學び、歸りて延曆寺を建てたるあり、

(眞言宗)

秘密の眞言を宗とするか故に眞言宗と名つけたり、印度に傳はり、龍智より金剛智に傳ふ、金剛智支那に來りて此宗の開祖とされり、時に不空と云ふ者、金剛智に從ひて來りしが、後又印度にかへり、更に瑜珈の秘密を受け、再支那に來りて經論を譯す、故に此宗の盛なるは不空の力多しとす、不空の弟子に惠果等八人ありて、布教に従事せり、此宗の我邦に入りたるは、平城帝の時にあり、初僧空海唐に入りて慧果に從ひて眞言宗を受け、歸りて之を弘布せり、盖是より前に眞言の傳來ありしも、其全く弘布せるは空海にありといふ

(淨土宗)

淨土を希ふを主とするを以て淨土宗と名けたり、此宗の主とする所は三經一論なり、三經は無量壽經、觀無量壽經、阿彌陀經にて一論は淨土論是あり、印度に於て、馬鳴龍樹世親の諸徳を祖とし、支那にては二流あり、曰く惠遠流是は廬山の蓮社にて惠遠を主とし、慈雲元照等に傳はれり、曰く善導流是は終南の派にて、善導と始とす、善導高宗の時、光明寺に居りて、大に此宗を弘めたり、此宗の我邦に興りたるは高倉帝の承安四年に、圓光大師源空の黒谷を出て、洛東吉水に居りて專修念佛を唱へたるにあり、盖本邦の淨土宗は善導流にて四派ありと云ふ、(各宗の源流は十二宗綱要及び三國佛敎略史等に據り)

第四節 技藝



(音樂) 隋の文帝の時の猶北周の樂を用ひて聲律正しからざりしが陳を平くるよ及びて宋齊の舊樂を得、且陳の樂官を得たりしかの雅樂漸く備はれり然るに煬帝の頗淫曲よ耽り齊周梁陳の樂工の子弟と民間の音よよき者とを擇ひて大樂よ付したりしかの雅樂頗其處を失ふよ至れり唐よ至りても高祖の初の音樂を改むるよ暇なく猶隋樂の舊よ由れり後海内の平定するよ及びて太常少卿祖孝孫よ命して雅樂を考正す孝孫梁陳の舊樂の吳楚の音を雜用し齊周の舊樂の胡戎の伎よ涉る者あるを以て南北を斟酌し古音を參考して大唐の雅樂を作り太宗の時よ至りて奉れり凡十二和樂(豫和、和順、永和、肅和、雍和、壽和、太和、舒和、昭和、休和、承和)よして四十八曲とす(玄宗の時又三和樂を作し併せて十五和樂とす)又文武の舞あり文の舞の七徳の舞と稱し(元秦王破陣樂と稱す)武の舞の九功の舞と稱す其他よ上元の舞あり併せて三大舞となす樂器よの鐘磬、祝敔、晉鼓、節鼓、琴瑟、箏、筑、竿、笙、簫、篪、塤、鐃、鐸の類ありて其種類甚多し玄宗の時の龍池樂、聖壽樂、小破陣樂、光聖樂等を作り樂部を分ちて立部伎と坐部伎となす

且玄宗最音樂を嗜み左右教坊を置きて俗樂を教授したりしかは當時教坊の生員二千人あり太常の樂工は萬餘戸に上れり其後戰亂によりて音樂の盛衰常なかりしと雖も宣宗の時には猶太常の樂工は五千餘人、俗樂は一千五百餘人ありと稱す五代の際に至りて多少の沿革ありしも大略唐の舊に由り漢は十二和を改めて十二成(成禮、順成、裕成、肅成、辟成、壽成、政成、毓成、慶成、德成、辰成、胤成)となし周は更に十二順(昭順、雍順、溫順、禮順、禋順、福順)となし世宗の時に至り又王朴に命して雅樂を更定したる事ありき

(書畫) 唐の世には選舉よ筆法の適美あるを要せしより書に巧なる者多し虞世南、褚遂良、歐陽詢、張旭、顏真卿、柳公權等最著はれたり虞世南は秀逸の趣あり褚遂良の蕭散の風あり歐陽詢の妍緊にして小楷を能くし張旭の意態縱横よして最草書を能くし其喜怒哀樂は皆書よ顯はれたりと稱す顏真卿は適勁秀拔よして其人となりよ類す柳公權の顏氏より出てたれども亦よく新意を出して別に一家をなしたりき



唐の世畫を能くしるる者も亦少なからず太宗の時に閣立本あり玄宗の時に李思訓あり思訓は唐の宗室にして好みて金碧の山水を畫く筆格遒勁なり時人其左武衛大將軍たりしを以て李將軍と稱せり是を北宗派の祖となす思訓の子昭道も亦よく山水を畫きたりしかは時人稱して小李將軍と云へり時に吳道玄(字子)と云ふ者あり亦畫をよくを曾て大同殿に於て嘉陵江を寫し一日にして畢れり思訓も亦命を受けて嘉陵江を寫したりしが數月を経て纔に畢れり玄宗見て嘆して曰く思訓數月の功道子一日の跡皆其妙を極めたりと又同時に王維あり詩を巧くして且畫を能くす常に破墨の山水を畫く雲峯石色皆其眞に迫れり是を南宗派の祖となす後張璪といふ者維の法を傳へたり五代に至りては荆浩關同の二人最畫名あり浩は世亂を避け太行山の浩谷に隱れて自ら浩谷子と號し山水樹石を畫きて自ら娛みたり同は浩の門人にして好みて秋山寒林の圖を作れり其筆簡にして氣壯景少くして意多しといふ

第五節 産業 (附)貨弊

農  
業

(農業) 唐の初に斑田の制を用ひ租庸調の法を行ひて大に心を民事に用ひたりしかは農業漸く盛になり初に一匹の絹を以て纔に一斗の米に易えたりしが後には斗米の價四五錢となるに至れり故に太宗の時には民物蕃息し千里の遠きに行くも糧を齎さざりきと云ふ後玄宗の時宇文融の言を用ひて戸田を檢括したりしが州縣の吏正田を羨田となし編戸を客戶とかし虚數を張りて上旨を希ふ者多かりしより天下の騷擾を招きたり蓋此の時に斑田の制漸く破れ租庸調の法も亦行はれず富豪兼併の弊起りて貧民業を失ひしかは買者を罰して地を還さしめたるか如きとありしも亦其勢を救ふ能はず農業の情態にも頗變更を來せり

唐の世に多く米穀を産する地は江南地方にして今の浙江安徽の諸省を最となす故に毎年數百萬石の租米を船に積み揚子江より運河を泝りて淮水を経過し遂に黄河に出て又洛水に入りて洛陽に輸し更に長安に送るを常とせり



後其運輸の法屢變りしが租米を運送するその依然として廢せず東方爭亂の際の漢水を沂りて長安に送り又絹緇紵麻の産する地も多く宋毫鄭濮曹懷諸州の絹及び復州常州の紵宣潤舒蘄黃岳諸州の大麻を最上品となせりと云ふ

商 業

(商業) 京師に市令の官ありて百族交易の事を掌りて猶周の司市の職の如し市に標を建て肆を陳ねて品物を分ち秤斗の二物を以て市を平にし上中下の三價を以て市を均くす弓矢長刀の官の標準によりて造り且工人の姓名を題して後に販賣を許す他の諸物も亦然り若し偽濫の物を以て交易する時の官に没し短狹の量に中らざる者を販賣したる時の主に還す凡て市の日午の擊鼓を以て集り日暮の擊鼓にて散するを例とす是れ令の定めたる所なれども一般に行はれたる者にあらざるべし  
邊境の交易を掌るの諸互市監あり交易にて得ざる馬駝驢牛等の各其色を分ち齒を具して所隸の州府に申す州府に更に太僕に申す太僕乃官吏を遣はし

て受領し上馬に印記して京師に送るなり當時外國交易の事の詳ならずと雖も版圖既に西方に擴まりて蕃客の往來も頗多かりしかり交易も亦隨ひて行はれたるべし彼の阿刺比亞人の如き唐の初に廣東乍浦寧波福州等の地に來つて交易をなしてあり唐の高祖使を遣はして好を修めたりしかり阿刺比亞王も亦其母舅賽爾を遣はして來朝せしめたりといふ  
唐の貨幣は高祖の時開元通寶を鑄たるを始めとし爾後歷代鑄造したる者少なからず高宗の時乾封泉寶を鑄、肅宗の時に乾元重寶を鑄、代宗の時に大歷元寶を鑄、德宗の時に建中通寶を鑄、懿宗の時に咸通元寶を鑄たり開元通寶の徑八分にして重二銖四參なり其他の錢は開元通寶に準して大小稍異れり



支那史卷四終

隋唐五代大事年表

崇峻天皇	推	古	天
千二百四十八年	千二百六十四年	千二百六十五年	千二百七十九年
開皇八年	仁壽四年	大業元年	武德元年
隋の文帝南北を一統す	文帝太子勇を廢す	東都と營み運河を開く	唐の高祖立つ○西秦を平く○宇文文化及煬帝を弒す
文帝太子勇を廢す	太子廣文帝を弒す	高麗を征す	涼を平く
文帝太子勇を廢す	文帝太子勇を廢す	再高麗を征す○楊玄感の反	河朔を平く○梁を平く
文帝太子勇を廢す	文帝太子勇を廢す	海内の争亂○李淵の興起	
文帝太子勇を廢す	文帝太子勇を廢す	同九年	同二年
文帝太子勇を廢す	文帝太子勇を廢す	同七年	同三年
文帝太子勇を廢す	文帝太子勇を廢す	同十二年	
文帝太子勇を廢す	文帝太子勇を廢す		
隋	文帝	煬帝	唐
高			







光仁天皇	桓武天皇	平城天皇	嵯峨天皇	天智天皇	淳和天皇
千四百三十五年	千四百四十二年	千四百四十五年	千四百七十七年	千四百七十九年	千四百八十七年
年太曆十	同三年	貞元元年	同六年	同十年	太和元年
田承嗣の反	○河北諸鎮の反 徑原の變	李懷光の反	河北諸鎮を征す	淮西の反 淮西を平く 諸鎮の服従	文宗立つ
宗	德宗	宗	憲	宗	文

元明天皇	元正天皇	聖武天皇	孝謙天皇	淳仁天皇
千三百七十年	千三百七十三年	千三百八十一年	千三百九十四年	千四百〇二年
景雲元年	開元元年	同九年	同廿一年	天寶元年
隆基中宗を弒す○ 韋后	玄宗立つ	天下の戸口を檢括す	李林甫を相となす	安祿山を節度使とあす
宗	玄宗	宗	肅宗	宗

千四百一十三年	千四百一十二年	千四百一十九年	千四百一十七年	千四百一十六年	千四百一十五年	千四百〇五年	千四百〇二年	千三百九十四年	千三百八十一年	千三百七十三年	千三百七十年
廣徳元年	寶應元年	乾元二年	同二年	至徳元年	同十載	同四載	天寶元年	同廿一年	同九年	開元元年	景雲元年
代宗立つ○僕固懷恩の反	内亂を平く	史思明大號を僭す	○東西兩京を復す	○肅宗蜀に出奔す	安祿山反す	楊太真を貴妃となす	安祿山を節度使とあす	李林甫を相となす	天下の戸口を檢括す	玄宗立つ	隆基中宗を弒す○ 韋后
代	宗	肅	宗	肅	宗	宗	玄宗	宗	玄宗	宗	宗



天皇	醍醐	天	皇
千五百五十六年 乾寧三年 李茂貞等長安を犯す	千五百六十年 光化三年 宦官昭宗を幽す	千五百六十七年 梁開平元年 朱全忠唐を篡す	千五百六十八年 同二年 李克用の死○李存勗立つ
千五百七十二年 乾化元年 朱全忠の死	千五百七十四年 同四年 李存勗燕を平く	千五百七十六年 貞明二年 契丹阿保機帝と稱す	千五百七十九年 同四年 李存勗梁を伐つ
千五百八十一年 龍徳元年 李存勗帝位に即く	千五百八十三年 唐同光元年 梁を滅す	千五百八十五年 同三年 前蜀を滅す	
宗	梁 太 祖	末 帝	唐 莊 宗

仁 明 天 皇	清 和 天 皇	陽 成 天 皇	宇 多
千四百九十一年 同五年 牛李の怨	千四百九十五年 同九年 甘露の變	千五百〇一年 會昌元年 武宗立つ	千五百〇二年 同二年 昭義を平く
千五百〇五年 同五年 佛寺を毀ち僧尼を廢す	千五百一十年 咸通元年 懿宗立つ○裘甫の亂	千五百一十八年 同九年 龐勛の亂	千五百二十四年 乾符元年 僖宗立つ○王仙芝黃巢の亂
千五百二十八年 同五年 王仙芝を殺す	千五百四十年 廣明元年 黃巢大號を僭す	千五百四十四年 中和四年 李克用黃巢を平く	千五百四十九年 龍紀元年 昭宗立つ
宗	懿 宗	僖 宗	昭 宗







明治二十三年十月八日一版印刷出版  
同二十五年三月廿六日訂正二版印刷出版

版權所有

著者

市村 瓚次郎

東京市麴町區土手三番町三番地

同

瀧川 龜太郎

同牛込區藥王寺前町五十三番地寄留

發行者兼

吉川 半七

同京橋區南傳馬町二丁目十二番地

發賣者

林 平次郎

同日本橋區本材木町二丁目

關西大  
賣捌所

松村 九兵衛

大阪市南區心齋橋南



大正  
柳原  
主

大正  
柳原  
主

大正  
柳原  
主